

第 1 章 基礎調査

第1章 基礎調査

1. 沖縄市の概況

(1) 位置・地勢

本市は、沖縄本島の中央部に位置し、人口約 13 万人を有する中部圏域の中核都市である。産業経済・医療・福祉・教育・文化等の都市施設や国、県等の広域的公共機関が集積しており、沖縄本島の南北圏域への結節点として経済流通や生活活動など重要な役割を担っている。

本市は北緯 26 度 20 分、東経 127 度 48 分にあつて、市域面積の 49.00 km²の約 9 割が標高 100m 以下の地域である。また、面積のうち約 36%を米軍基地が占めており、限られた土地を有効活用すべく、「東部海浜開発計画」や「沖縄市中心市街地活性化基本計画」等、地理的条件や特色を生かしたプロジェクトが進められている。



(2)気候

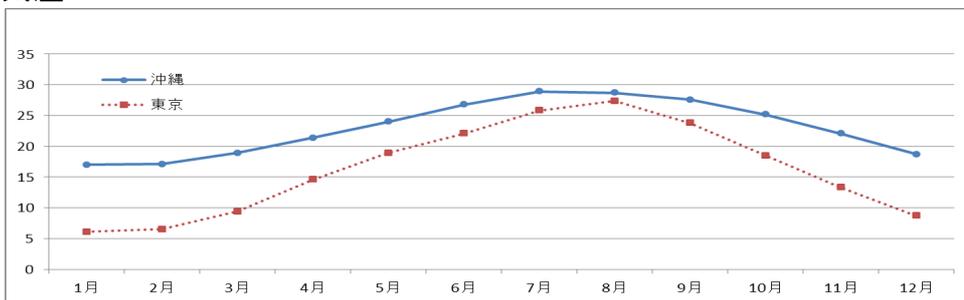
沖縄市の気候は、亜熱帯海洋性気候に属し、黒潮の関係で冬季も暖かく、近年の平均気温は摂氏23度程度、最低気温も10度前後と、降雪、降霜もほぼ見られない。降水量は、年間を通じて100ミリを超えることが多く、日照時間については、夏季に長く冬季に短いという特徴を持っており、施設は、全天候に対応した施設整備を検討する必要がある。

気象台	年月	気温(°C)			湿度(%)	降水量(mm)		日照(h)	
		平均	最高	最低	平均	総量	最大日量	総量	
沖縄市	平成19年	23.5	26.2	21.2	72	2816.5	427.5	1759.4	
	平成20年	23.4	26.2	21.1	71	1621	138.5	1815.1	
	平成21年	23.4	26.3	21.1	72	1864.5	155	1876.6	
	平成22年	23.1	25.8	20.8	74	2895.5	131.5	1502.7	
	平成23年	22.9	25.5	20.7	75	2122	225	1602.3	
	平成24年	23	25.6	20.9	74	2733	174	1538.9	
	平成25年	23.3	26	21.1	73	2071	204	1809	
	月別平均値	1月	17	19.5	14.6	67	107		94.2
		2月	17.1	19.8	14.8	70	119.7		87.1
		3月	18.9	21.7	16.5	73	161.4		108.3
		4月	21.4	24.1	19	76	165.7		123.8
		5月	24	26.7	21.8	79	231.6		145.8
		6月	26.8	29.4	24.8	83	247.2		163.6
7月		28.9	31.8	26.8	78	141.4		238.8	
8月		28.7	31.5	26.6	78	240.5		215	
9月		27.6	30.4	25.5	76	260.5		188.9	
10月		25.2	27.9	23.1	71	152.9		169.6	
11月		22.1	24.6	19.9	69	110.2		123	
12月		18.7	21.2	16.3	66	102.8		115.6	
東京	1月	6.1	9.9	2.5	49	52.3		187.9	
	2月	6.5	10.4	2.9	50	56.1		167.3	
	3月	9.4	13.3	5.6	55	117.5		163.1	
	4月	14.6	18.8	10.7	60	124.5		175.4	
	5月	18.9	22.8	15.4	65	137.8		172.5	
	6月	22.1	25.5	19.1	72	167.7		123.2	
	7月	25.8	29.4	23	73	153.5		143.9	
	8月	27.4	31.1	24.5	71	168.2		175.3	
	9月	23.8	27.2	21.1	71	209.9		117.8	
	10月	18.5	21.8	15.4	66	197.8		133.4	
	11月	13.3	16.9	9.9	59	92.5		146.6	
	12月	8.7	12.4	5.1	52	51		175	

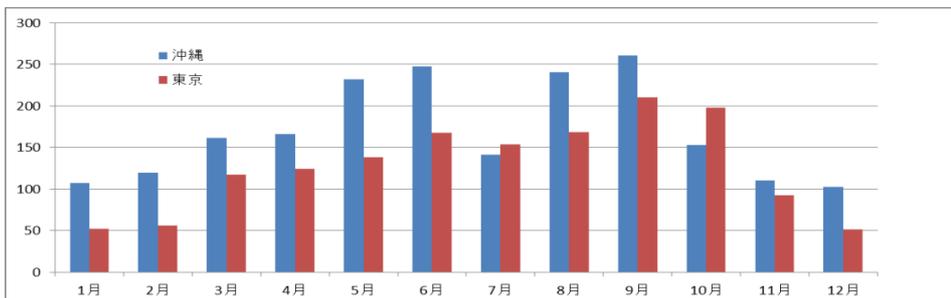
資料：気象庁

注：月別平均値は、公表されている昭和56年～平成25年の30年間の平均値

気温



降水量

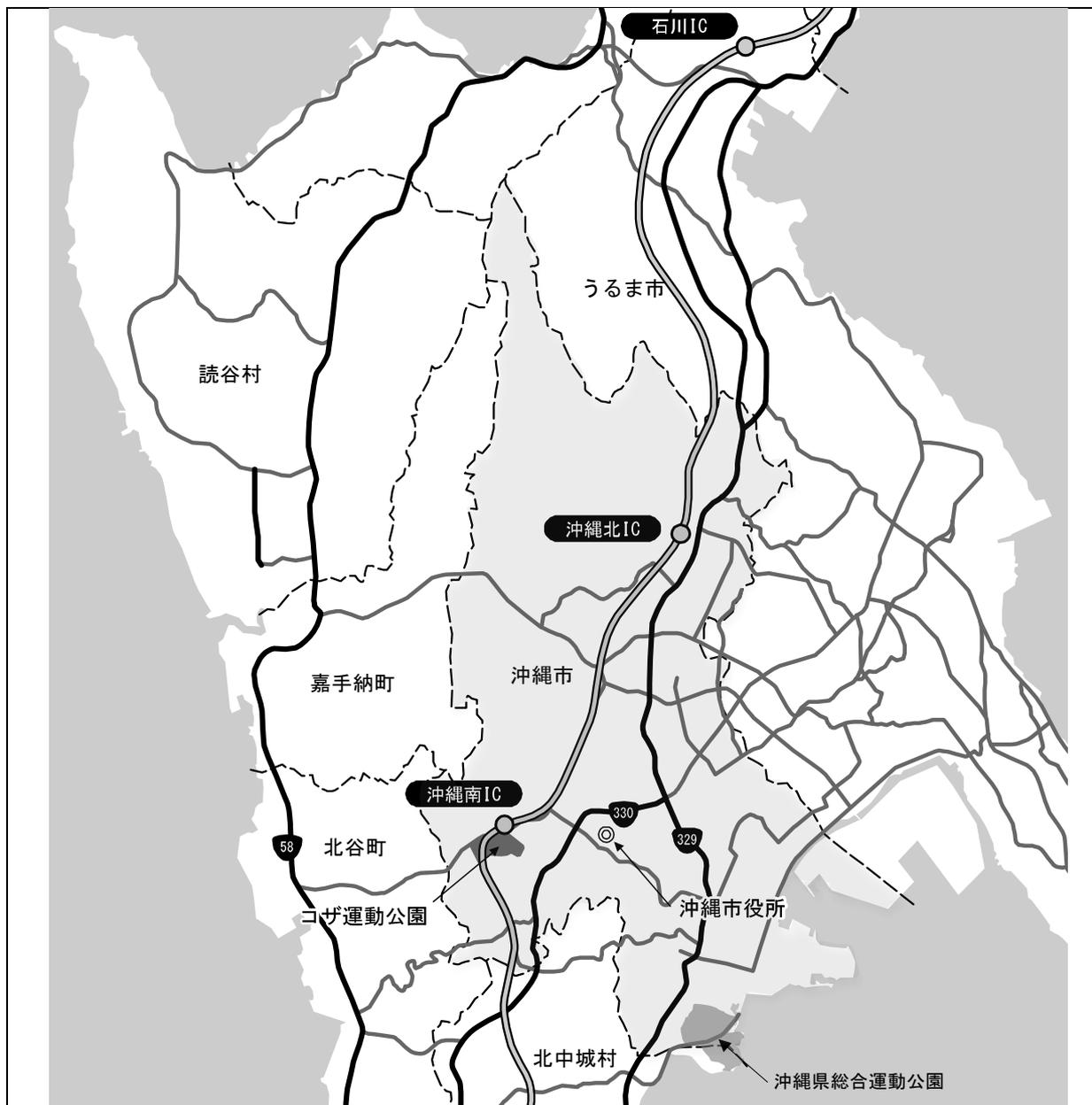


(3) 交通体系

交通については、沖縄自動車道や国道 329 号、国道 330 号をはじめ主要地方道が整備され、沖縄本島内の各市町村へのアクセス利便性は年々向上している。沖縄自動車道のインターチェンジは市内に 2 箇所設置されており、那覇空港から 1 時間程度でアクセス可能である。また、北部の中核都市である名護市へも 1 時間程度で到着できるなど、広域交通条件に恵まれた都市である。この恵まれた交通条件を視野に施設の整備を進めることにより、各種スポーツ大会やキャンプ・合宿の誘致などを活かした地域振興の可能性が広がっている。

また、市内の交通網については、公共交通は路線バスと中心市街地の循環バスのみとなっており、自動車での移動が主体となることが想定されるため、施設の整備においては、駐車場の規模等について十分な配慮が必要となっている。

■ 沖縄市の広域道路の状況（県道以上）



2. 人口推計

(1)人口推計

第4次沖縄市総合計画における目標人口は、国勢調査を基にした人口推計に、①中心市街地の再生や県道20号線・シンボルロード沿線の建物更新による人口増により、トレンドに反映されない約500人の人口増、②公的住宅整備による約350人の人口増、③土地区画整理事業地区の宅地化促進により約2,700人の人口増加を見込んでおり、合計約3,550人の人口増加を加え、2020年の目標人口を約145,000人と定めている。

	H21年	H22年	H23年	H24年	H25年	H26年	H27年	H28年	H29年	H30年	H31年	H32年	H33年	H34年
総人口	134,792	135,826	136,795	137,730	138,627	139,467	140,261	141,042	141,825	142,549	143,234	143,921	144,564	145,172
0～14歳	26,639	26,573	26,383	26,254	26,146	25,947	25,731	25,528	25,387	25,213	25,136	25,051	24,992	24,877
15～64歳	87,772	88,751	89,919	90,230	90,328	90,530	90,579	90,590	90,695	90,852	90,984	91,176	91,314	91,544
65歳以上	20,381	20,503	20,494	21,246	22,153	22,990	23,952	24,924	25,743	26,483	27,114	27,694	28,258	28,751
幼年人口(0～14歳)比率	19.8%	19.6%	19.3%	19.1%	18.9%	18.6%	18.3%	18.1%	17.9%	17.7%	17.5%	17.4%	17.3%	17.1%
生産年齢人口(15～64歳)比率	65.1%	65.3%	65.7%	65.5%	65.2%	64.9%	64.6%	64.2%	63.9%	63.7%	63.5%	63.4%	63.2%	63.1%
老年人口(65歳以上)比率	15.1%	15.1%	15.0%	15.4%	16.0%	16.5%	17.1%	17.7%	18.2%	18.6%	18.9%	19.2%	19.5%	19.8%

こうした施策の進捗により、平成26年12月1日の沖縄市人口は139,073人となり、沖縄市の人口は現在も増加傾向にあると言える。また、今日の我が国の人口動態を考慮した場合、沖縄市においても継続的な人口増加を維持することは容易ではないが、今後、急激な人口減少が起こることは考えにくい状況にある。

(2)人口及び世帯数

平成16年から平成26年までの10年間における本市の人口及び世帯数を下の表にまとめた。

	H16年	H17年	H18年	H19年	H20年	H21年	H22年	H23年	H24年	H25年	H26年
人口(人)	128,635	130,117	131,292	132,264	133,096	133,762	134,555	135,363	136,330	138,362	138,663
世帯数(世帯)	46,798	47,944	48,939	49,882	50,846	51,684	52,494	53,393	54,434	55,775	56,507
世帯人数(人)	2.75	2.71	2.68	2.65	2.62	2.59	2.56	2.54	2.50	2.48	2.45

表からは毎年約1,000世帯程度の世帯の増加が見られ、今後とも増加が予想される。一方、世帯人数は若干減少していることも読み取れる結果となった。

3. 上位・関連計画の整理

国や県、市の計画等との整合性を確保し、施策の位置づけを明確にするため、上位・関連計画等を抽出し整理した。

▽上位関連計画

国の上位・関連計画等
<ul style="list-style-type: none"> ●スポーツ基本法（平成23年法律第78号） ●スポーツ基本計画（平成24年3月30日）文部科学省 ●沖縄振興計画（平成24年5月）内閣府 ●観光立国推進基本計画（平成24年3月30日閣議決定）国土交通省 ●MICE推進アクションプラン 国際交流拡大のためのMICE推進方策検討会（平成21年7月）観光庁 ●防災基本計画（平成26年1月）中央防災会議
県の上位・関連計画等
<ul style="list-style-type: none"> ●沖縄21世紀ビジョン基本計画（平成24年5月）沖縄県 ●沖縄県スポーツ振興計画（平成25年3月）沖縄県 ●沖縄県観光振興基本計画 第5次（平成24年5月）沖縄県 ●大型MICE施設整備と街づくりへ向けた基本構想（平成26年3月）沖縄県 ●沖縄県地域防災計画（平成25年3月修正）沖縄県
市の上位・関連計画等
<ul style="list-style-type: none"> ●第4次 沖縄市総合計画 基本構想 前期基本計画 平成23年度～平成27年度（平成23年6月） ●沖縄市中心市街地活性化基本計画（平成22年3月） ●沖縄市スポーツ推進計画（平成26年3月） ●沖縄市都市マスタープラン（平成22年3月） ●沖縄市教育振興基本計画平成24年度～28年度（平成24年3月） ●沖縄市防災計画（平成27年3月一部修正） ●沖縄市スポーツ推進計画（平成26年3月） ●スポーツコンベンションシティ宣言（平成8年） ●国際文化観光都市宣言（昭和49年）

(1) 総合計画等

国と県の上位計画として、沖縄振興特別措置法に基づく「沖縄振興計画（沖縄21世紀ビジョン基本計画）」が策定され、「スポーツアイランド沖縄」の形成、中部圏域の「観光リゾート産業の振興」などを示している。また、市の上位計画である「第4次沖縄市総合計画」では、「豊かな地域資源を活かした観光を創造する」とし、スポーツコンベンションの推進を掲げるとともに、市の都市計画マスタープランにおける「コザ運動公園の利活用促進」などが掲げられ、沖縄市中心市街地活性化基本計画においてもコザ運動公園を健康増進施設や娯楽施設が設置される「市民の健康増進やレクリエーション等に寄与する施設として重要な都市福利機能である」と位置づけている。本基本構想はこうした上位計画のほか、関連計画と連携し、施策展開を行うものである。

(2) スポーツ関連

国の上位計画として、スポーツ基本法の理念を具現化し、施策推進の重要な指針を示す「スポーツ基本計画」がある。また、沖縄県による「沖縄県スポーツ振興計画」ではバスケットボール等の大型スポーツコンベンションを開催可能な施設整備、全天候型多目的施設整備の推進など、具体的な施設整備についても触れている。さらに、「沖縄市スポーツ推進計画」では、コザ運動公園について施設の整備・充実及び利用促進を図るとし、これらを市民やスポーツ団体等の参画のもと推進していくものとして示されている。

(3) 観光関連

観光関連の上位計画として国の「観光立国推進基本計画」があり、国際的な競争力強化、MICEに関する受入環境の整備などを定めている。また、「沖縄県観光振興基本計画（第五次）」では、沖縄振興計画が掲げる世界水準の観光リゾート地の実現に向け、計画を定め、さらに、沖縄市による「沖縄市観光戦略プラン」では「チャンプルー文化の薫り漂うコザ物語」をコンセプトに、重点施策としてスポーツコンベンションシティの推進を掲げている。

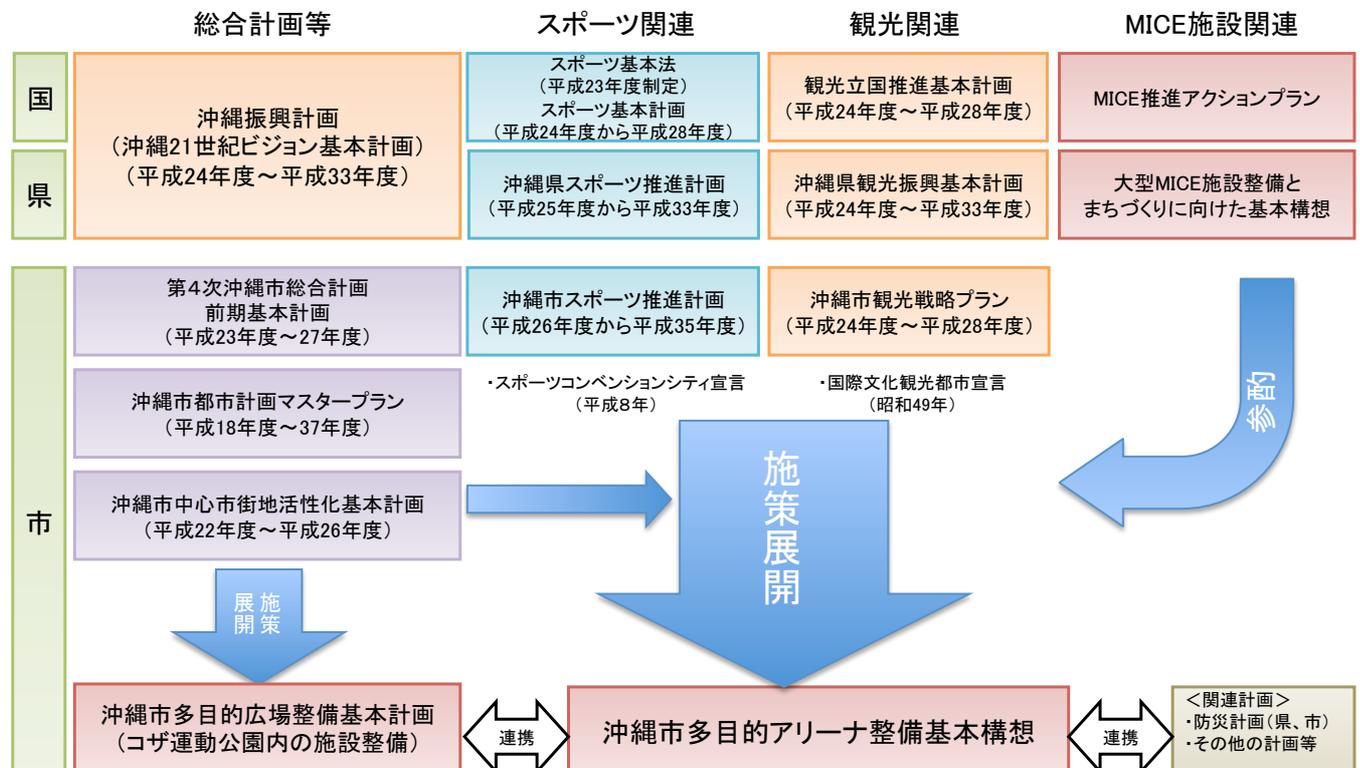
(4) MICE 施設関連

MICE 施設に関する関連計画として、我が国の MICE 推進のための基本的な課題・方向性及びアクションプランをとりまとめた「MICE 推進アクションプラン」がある。また、沖縄県では「大型 MICE 施設整備とまちづくりに向けた基本構想」を定め、具体的な施設整備を行う準備を進めている。

(5) その他関連計画等

その他の関連計画として、国の「防災基本計画」、県による「沖縄県地域防災計画」、さらに沖縄市が策定している「沖縄市地域防災計画」がある。コザ運動公園は防災施設としての機能も求められるため、これら関連計画との連携も求められる。

<上位・関連計画等の位置づけ>



4. コザ運動公園の現況

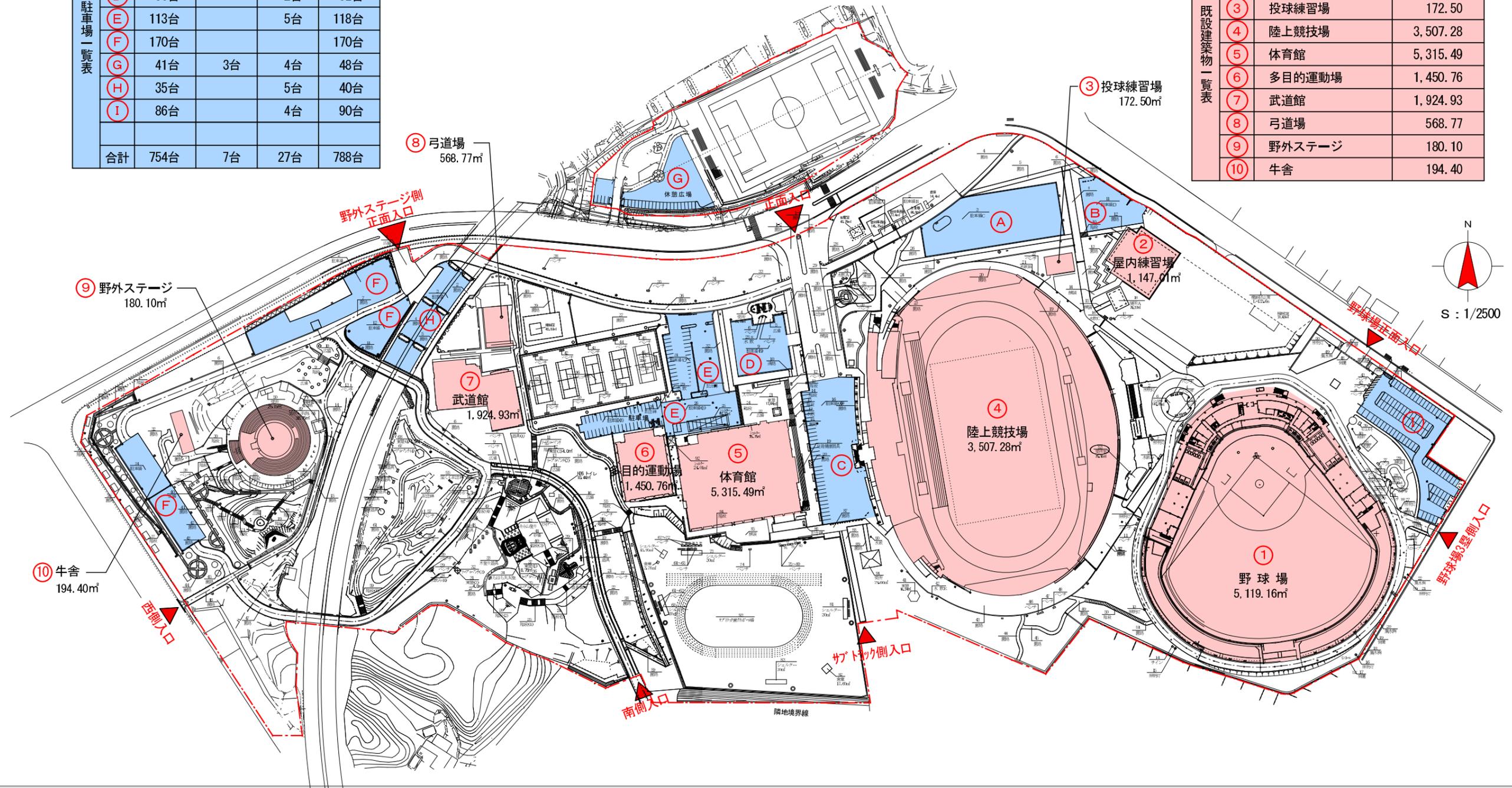
(1)コザ運動公園の概要

コザ運動公園の敷地面積は約 23.77ha（平成 13 年告示）であり、主要施設は、野球場（コザしんきんスタジアム）、陸上競技場、体育館、多目的運動場、武道館、弓道場、屋内運動場、投球練習場、野外ステージ（闘牛場）などとなっている。現在は、プロ野球のキャンプ地、全島エイサーまつり等のイベント会場として利用されている。

敷地内駐車場一覧表	符号	普通車両	バス	身障者用	合計
	A	103台			103台
	B	47台			47台
	C	109台	4台	7台	120台
	D	50台		2台	52台
	E	113台		5台	118台
	F	170台			170台
	G	41台	3台	4台	48台
	H	35台		5台	40台
	I	86台		4台	90台
合計	754台	7台	27台	788台	

コザ運動公園の概要

番号	施設名称	建築面積 (㎡)
①	野球場	5,119.16
②	屋内練習場	1,147.01
③	投球練習場	172.50
④	陸上競技場	3,507.28
⑤	体育館	5,315.49
⑥	多目的運動場	1,450.76
⑦	武道館	1,924.93
⑧	弓道場	568.77
⑨	野外ステージ	180.10
⑩	牛舎	194.40



(2)自然・植栽等

コザ運動公園がある市の南西部は宅地化が進んでおり、自然環境は減少傾向にある。南部の山内区内も同様であるが、谷間群は、地形や地質が複雑であり、植物相も北部のシイ林要素と南部の石灰岩要素が混在する地域で、植生も両地域の群落の構成種を混生させ、高木層にイジュ・ヤマモモ等の優占する特有の群落を形成している。この辺りはヤマモモの産地としても有名で、街路樹にもヤマモモを植える取組みがなされている。

＜コザ運動公園周辺の植栽＞



▲グランド通（でいご、松、福木の街路樹が混在する地点）



▲県道 85 号線沿い（公園の松の植栽）



▲野外ステージ南側（松とその他の植物が密生）



▲多目的運動場側から自動車道側（なだらかな谷、植物群生）



5. 周辺土地利用

(1) 周辺の土地利用

コザ運動公園周辺は、第一種低層住居専用地域、第二種低層住居専用地域、第一種中高層住居専用地域などの住宅地が広がっており、国道330号周辺が商業地域となっている。コザ運動公園の南側には沖縄女子学園、沖縄少年院があるほか、周囲に沖縄市文化センター（図書館および郷土博物館等）、沖縄市青少年センターなどの公共施設が存在している。



(2)コザ運動公園周辺公共駐車場

コザ運動公園の周辺 2km 圏内にある公共駐車場の収容台数は 2,742 台となり、周辺 5km 圏内の公共駐車場収容台数は 3,826 台となる。



6. 関連施設・施策の動向

(1) 沖縄県の道路計画・那覇空港第二滑走路の整備

県内の主要道路計画より、沖縄市に沖縄西海岸道路、沖縄中部横断道路などが構想されている。



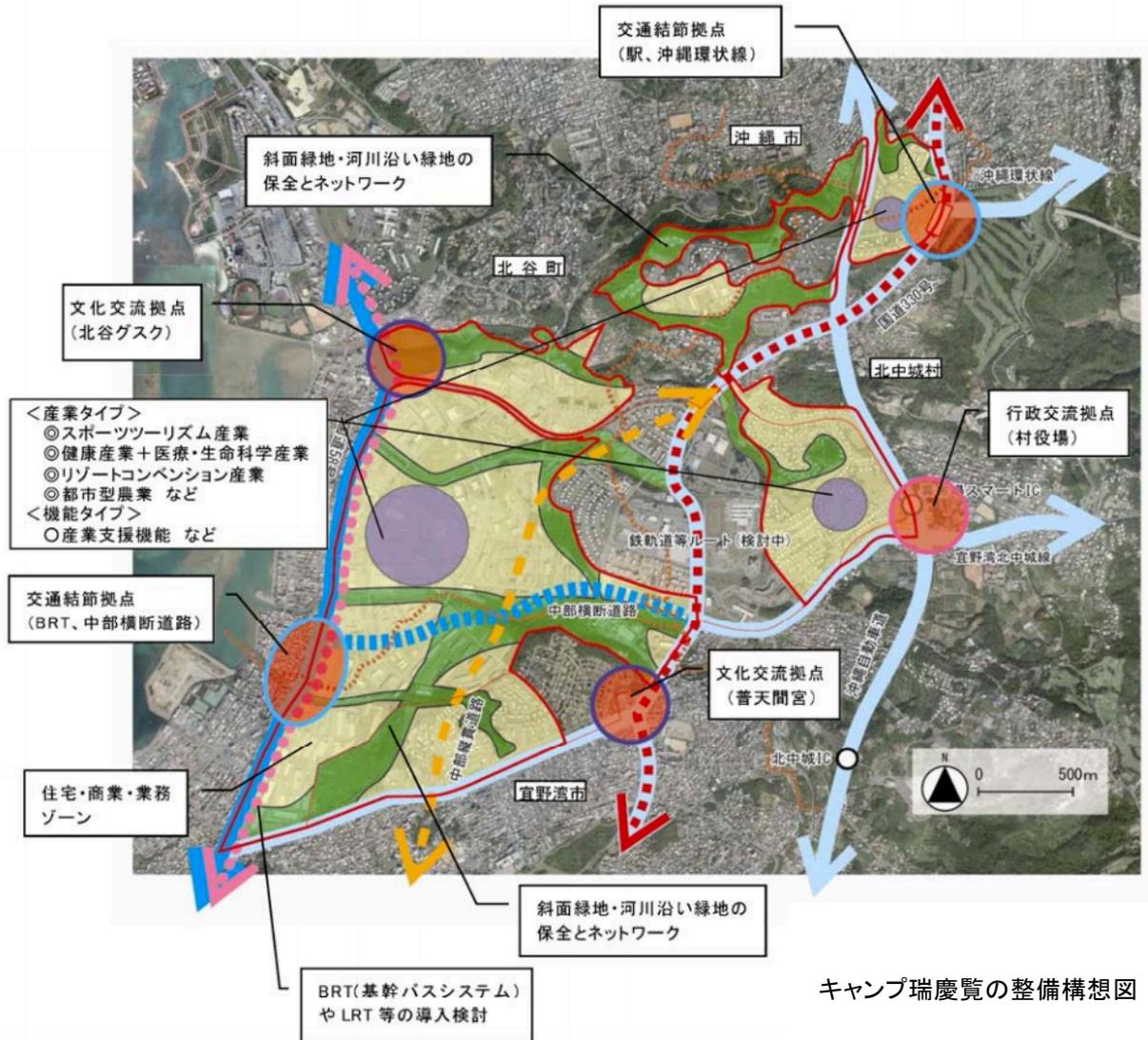
出典：沖縄県「沖縄県の道路」2013年

< 沖縄西海岸道路 >

読谷を起点とし糸満に至る延長約50kmの地域高規格道路であり、平成6年12月16日に計画路線に指定された。読谷村～那覇空港間は国道58号として、那覇空港～糸満市間は国道331号としてそれぞれ整備することになっており、区間別路線では宜野湾バイパス、豊見城道路に次いで平成23年に那覇西道路（空港～若狭間）が開通している。さらに浦添北道路として宜野湾市宇地泊（宜野湾バイパス）～浦添市港川（臨港道路浦添線接続部）を結ぶ道路計画がされているが具体的な供用開始時期は明示されていない。

< 沖縄中部横断道路（仮称）等 >

キャンプ瑞慶覧返還予定地には、中部横断道路および中部縦貫道路が計画されている。基地返還に伴う事業構想であるため、事業実施時期、供用開始時期ともに明示されていない状況にある。



キャンプ瑞慶覧の整備構想図

出典：沖縄県「中南部都市圏駐留軍用地跡地周辺整備検討調査（キャンプ瑞慶覧）報告書」平成26年3月

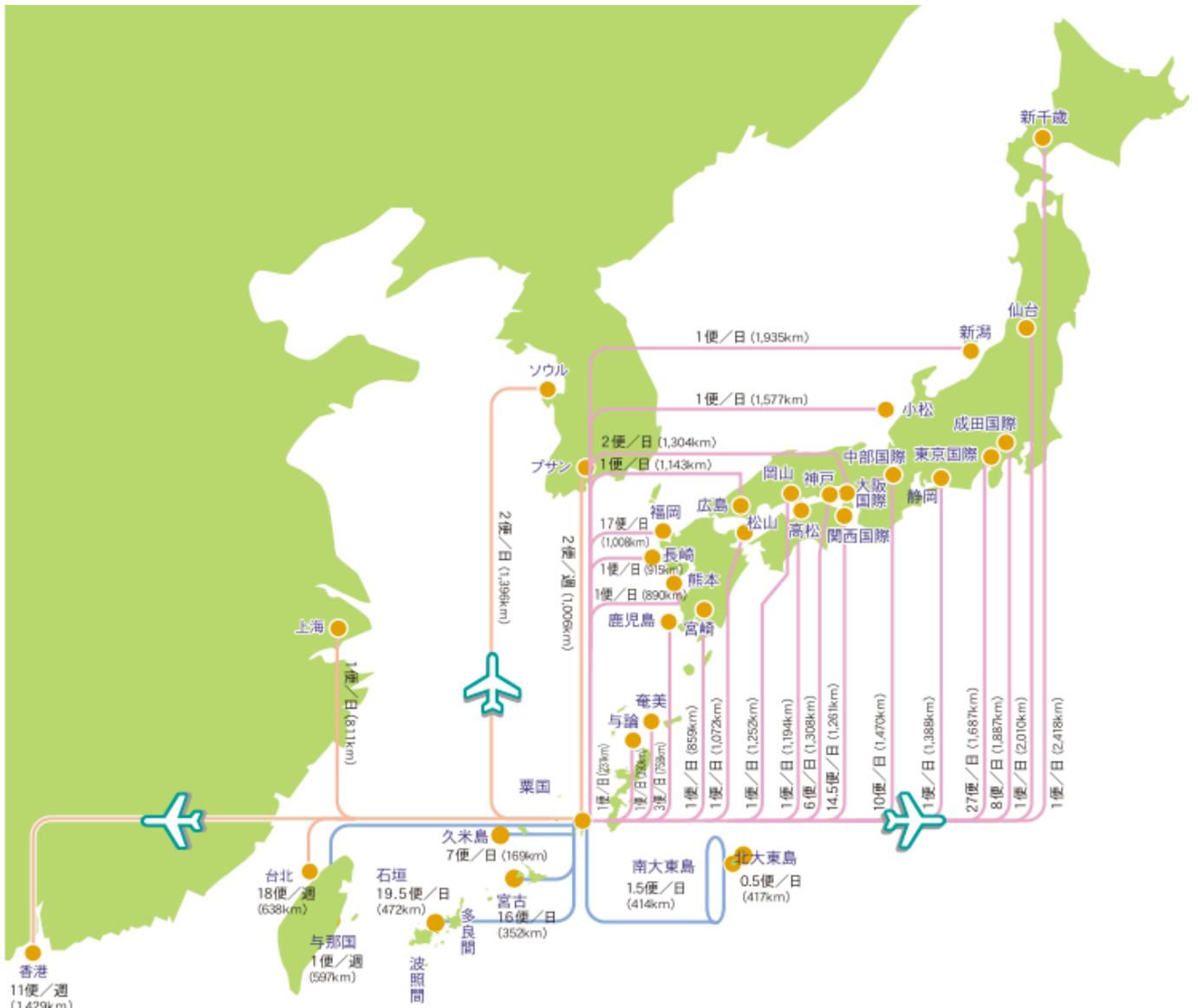
< 沖縄市への影響 >

国内外からの誘客は、那覇空港や宿泊施設を經由し、沖縄自動車道（高速道路）の利用が最も利便性が高いと考えられる。また、沖縄西海岸道路の整備や中部横断道路（仮称）などの整備により、中南部圏域からのアクセス利便性の向上や基地跡地利用による新たな住宅および交通需要の増加なども考えられ、整備の推進が期待される。

<那覇空港の現状>

海外 10 都市以上、国内は 30 都市以上へアクセスし、東京、大阪、福岡などの大都市に次いで利用者数が多い空港であり、着陸回数および旅客数の伸びに対応する形で、平成 32 年に供用開始予定の第二滑走路の整備を進めている。

■路線網と便数



出典：沖縄総合事務局 那覇空港プロジェクト室（空港整備課）発行「那覇空港 2013 年」より

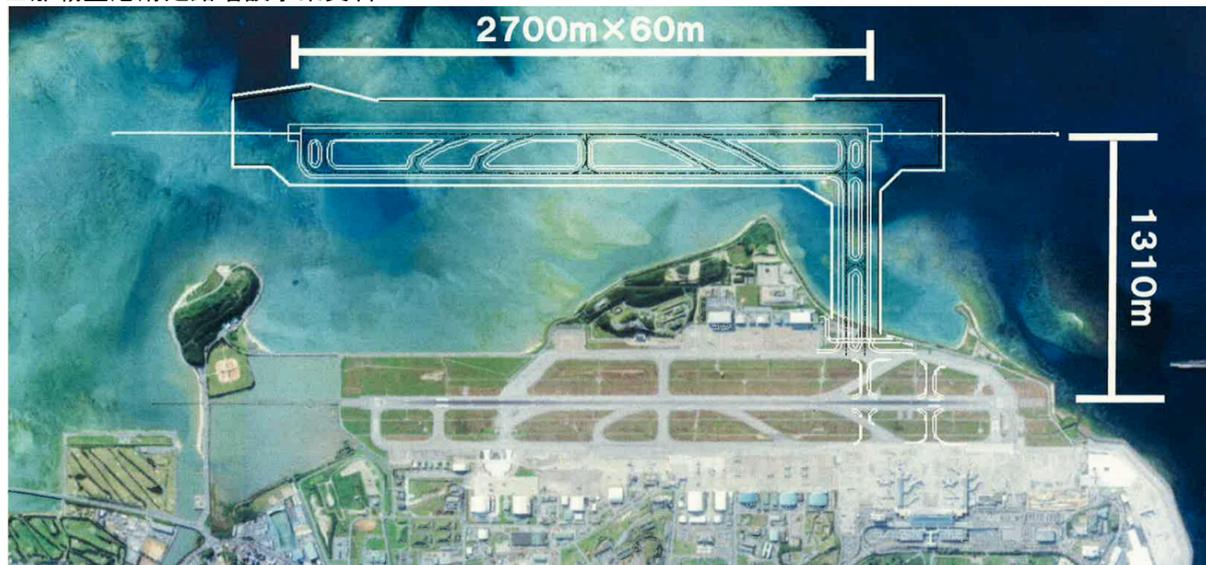
また、沖縄県の地理的優位性から、東アジア圏の物流拠点として期待されており、今後、那覇空港を拠点とした旅客量の増加が見込まれる。

■東アジアの中心に位置する地理的優位性～20億人の巨大マーケットの中心～



出典：沖縄県商工労働部国際物流商業課 発行「沖縄国際物流ハブ～アジア主要都市への催促物流を実現～」平成26年度

■那覇空港滑走路増設事業資料



出典：国土交通省 航空局 平成25年度予算決定概要より

(2) ビジットおきなわ計画の概況

「ビジットおきなわ計画」は、将来の観光客数1千万人を目指し、平成19年度から毎年作成されている誘客行動計画である。年毎に重点的に誘客に取り組むマーケットや目標を定め、それを達成するための施策展開の方針等を明らかにしている。近年、外国人観光客の増加等を目標に掲げ、沖縄観光ブランド力の強化、観光客受入れ態勢の充実・強化に向け戦略及び施策展開が行われている。

▽ビジットおきなわ計画の変遷

年度	主要施策の展開	目標値
平成19年度	1.シニアマーケットの拡大 2.外国人観光客の誘客促進 3.コンベンションの誘致促進 4.リゾートウエディングの推進 5.幅広いマーケットへの取組み	入域観光客数:590万人 うち外国人観光客数:15万人 観光収入:4,484億円
平成20年度	1.外国人観光客の誘客促進 2.MICEの誘致促進 3.ニューツーリズムの推進 4.リゾートウエディングの推進 5.幅広いマーケットへの取組み	入域観光客数:620万人 うち外国人観光客:22万人 観光収入:4,770億円 観光客一人あたり県内消費額:77,000円
平成21年度	1.沖縄観光誘客特別対策 2.外国人観光客の誘客促進 3.MICEの誘致促進 4.リゾートウエディングの推進 5.ニューツーリズムの推進 6.幅広いマーケットへの取組み	入域観光客数:630万人 うち外国人観光客:30万人 観光収入:4,851億円 観光客一人あたり県内消費額:77,000円
平成22年度	1.外国人観光客誘致の強化 2.付加価値の高い旅行の促進 3.新規市場の開拓 4.受入体制強化による満足度の向上	入域観光客数 600万人 うち外国人観光客数:30万人 観光収入:4,380億円 観光客一人当たり県内消費額 73,000円
平成23年度	1.外国人観光客誘致の強化 2.付加価値の高い旅行の促進 3.新規市場の開拓 4.受入体制強化による満足度の向上	検討中 (「東北地方太平洋沖地震に伴う影響を考慮し、今後設定する」とされている)
平成24年度	1.市場特性に対応した誘客活動の展開 2.離島観光の推進 3.沖縄観光ブランド力の強化 4.観光客の受け入れ態勢の整備	入域観光客数:620万人 うち外国人観光客数:45万人 観光収入:4,700億円 観光客一人当たり県内消費額:75,000円 平均滞在日数:3.95日 人泊数:1,840万人泊
平成25年度	1.国内外における戦略的な誘客活動の展開 2.離島観光の推進 3.沖縄観光ブランド力の強化 4.観光人材の育成 5.観光客受入れ態勢の充実・強化	入域観光客数:630万人 うち外国人観光客数:50万人 観光収入:4,740億円 観光客一人当たり県内消費額:75,000円 平均滞在日数:3.95日 人泊数:1,870万人泊
平成26年度	1.国内外における戦略的な誘客活動の展開 2.離島観光の推進 3.沖縄観光ブランド力の強化 4.観光人材の育成 5.観光客受入れ態勢の充実・強化	入域観光客数:690万人 うち外国人観光客数:80万人 観光収入:4,970億円 観光客一人当たり県内消費額:75,000円 平均滞在日数:3.95日 人泊数:2,004万人泊

(3) (仮称)スポーツコミッション沖縄の動き

平成25年11月に沖縄県と沖縄観光コンベンションビューローが「アジア・世界に開かれたスポーツアイランド沖縄の実現を目指して～スポーツコミッション沖縄（仮称）設立に向けて～」と題してシンポジウムを開催し、沖縄観光コンベンションビューロー内に「スポーツコミッション沖縄（仮称）設立準備事務局」を設置した。

本県の温暖な気候や地域特性、多種多様な競技施設等、豊富なスポーツ資源を最大限に活かし、新たな市場領域として大きな期待が寄せられているスポーツコンベンションの分野について、関係機関や県内各地との連携をより強化し、各種スポーツコンベンション及びスポーツツーリズムの誘致活動並びに受入体制の整備を図っている状況にあり、平成27年度より本格運用の予定となっている。

<スポーツコミッション沖縄の業務概要>

- ① コンサルティング
- ② 市町村・競技団体との連携
- ③ 各種関係企業・団体との連携・情報共有
- ④ マーケティング
- ⑤ 情報発信
- ⑥ プロモーション活動

<担当者ヒアリング>

- ・ 夏場は観光シーズンで、オフシーズンとなる冬場にスポーツコンベンションという考え。
- ・ コミッションは入り口となり誘客することはできるが、施設等は単独ではつukれない。このあたり、市町村や企業との連携を図り進めていく。
- ・ MICE としての役割に加え、沖縄県体育協会と連携することで、観光だけでなく、競技者のレベルアップや健康促進なども図れるのではないかと考える。
- ・ 体育施設で運動する側だけでなく、観客として参加して楽しいと思える取り組みの推進。
- ・ 大型のイベントに対応できる施設を実現しつつ、稼働率を高めることが望ましい。
- ・ 現在1万人規模の会場は野球場しかない。コンベンションセンターでも3,000人規模。沖縄市に1万人規模の施設ができればいろいろな催しが開催できるようになると思う。

(4)スポーツ合宿等の現況

沖縄観光コンベンションビューローによる「スポーツコンベンション開催実績調査（平成25年度版）」では、スポーツキャンプ・合宿の調査結果を以下のようにまとめており、県内では陸上競技や野球を中心にスポーツキャンプが行われ、地域別では沖縄市が最多であるが、那覇や石垣も昨年比で倍増し、県全体で合宿等の需要増加が読み取れる。

▽種目／参加人数

野球・陸上競技が主要種目となっている

種目別キャンプ合宿実施状況【件数】を見ると、総件数（326件）に対し、野球（133件）、陸上競技（113件）次いでサッカー（23件）となり、野球と陸上競技は他の競技と比べ圧倒的に件数が多い。

1件あたりの参加人数は野球・バスケットボールが多い

種目別キャンプ合宿実施状況【参加人数】を見ると、野球は開催件数（133件）に対して参加人数（7,044人）、1件あたり約52人。
バスケットボールは開催件数（1件）に対して参加人数（50人）、1件あたり50人
陸上競技は開催件数（113件）に対し参加人数（4,208人）、1件あたり約37人

▽団体／参加人数

団体別では大学が最も多い

団体別キャンプ合宿実施状況【件数】を見ると、総件数（326件）に対して、大学（93件）、プロ（61件）、社会人（72件）、高校（54件）となっており、大学・社会人・プロ・高校、いずれも年々増加している。

1件あたりの参加人数も大学が多い

団体別キャンプ合宿実施状況【参加人数】を見ると、大学は開催件数（93件）に対して参加人数（5,622人）、1件あたり約60人。
高校は開催件数（54件）に対して参加人数（2,094人）、1件あたり約38人。
アマ合同は開催件数（12件）に対して参加人数（464人）、1件あたり約38人。

▽開催市町村

メイン開催会場は沖縄市

キャンプ合宿の開催会場を市町村別で見ると、最も多いのは沖縄市（60件）、次いで国頭村が（44件）と昨年度同等の実績を残している。さらに、那覇市（39件）、石垣市（25件）が、昨年度に比べ2倍以上に増加している。

▽滞在日数

平均滞在日数は7.1日

平均滞在日数は7.1日となっており、一昨年（9.1日）、昨年（7.9日）より短くなっている。

▽開催月

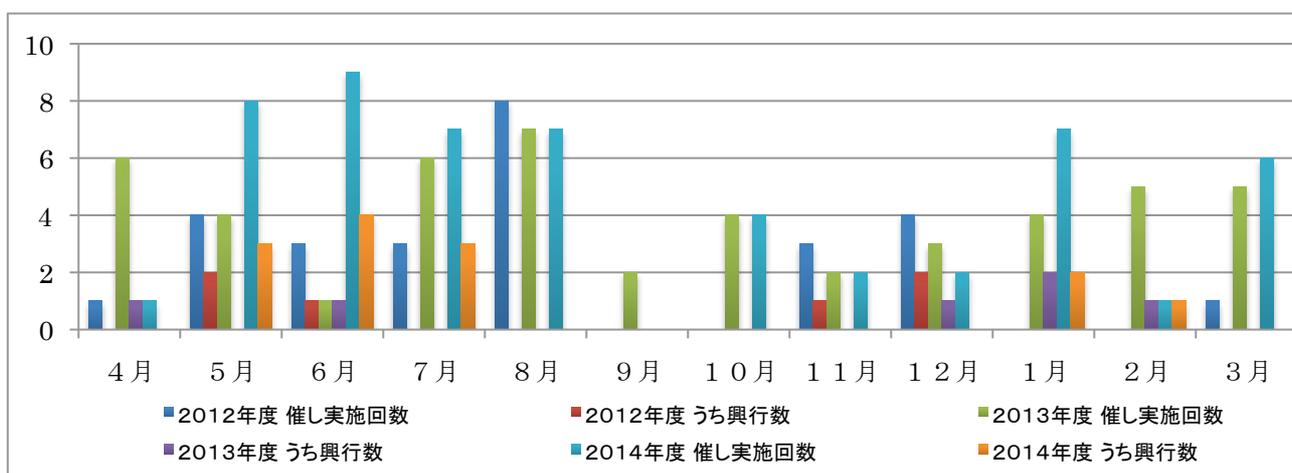
開催月は3月が最も多い

開催月別に見ると12月～3月にかけて冬場の開催が多く、特に3月（119件）に集中している。

(5) 県内の大型コンサート(興行)開催状況

沖縄県内の大型コンサート等の開催状況について、沖縄コンベンションセンターの利用案内から、展示棟（最大 5,000 人規模）の利用について、3,000 名以上の利用の催しの回数と 3,000 名以上かつ興行として行っている回数をカウントし整理した。

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2012年度	催し実施回数	1	4	3	3	8	0	0	3	4	0	0	1	27
	うち興行数	0	2	1	0	0	0	0	1	2	0	0	0	6
2013年度	催し実施回数	6	4	1	6	7	2	4	2	3	4	5	5	49
	うち興行数	1	0	1	0	0	0	0	0	1	2	1	0	6
2014年度	催し実施回数	1	8	9	7	7	0	4	2	2	7	1	6	54
	うち興行数	0	3	4	3	0	0	0	0	0	2	1	0	13



コンサート型の催しは、アーティストの状況などの事情で、年度によって回数、時期も異なる。また、コンベンションセンター劇場棟（最大 1,700 人規模）を利用するアーティストについて、より大規模な会場での興行を行う可能性について検討したが、劇場ツアー（1,500 人規模）という形で回られているアーティストがアリーナ（3,000 人以上）でコンサートするとなると機材や準備するものが大きく異なるため難しいと回答を得た（PM エージェンシー追加ヒアリングより）。

野外コンサートの開催状況について

屋外のイベントでは「ワッターワンダフルワールド（モンゴル 800 等）」、「うたの日コンサート（BEGIN 等）」、「オリオンビアフェスタ」など、毎年の開催が恒例となっているものもあるが、それら以外の野外の大型イベントは、年により開催意向が異なるため一概には言えない状況にある。

(6) その他の大規模催しの動向について

沖縄県による「大型 MICE 施設整備と街づくりへ向けた基本構想」では、大型コンサート（興行）等の Event 需要予測について、10,000 人規模のイベントが年間 12～18 回程度あるとしている。また、1,000 人規模以上の大型催事について、沖縄コンベンションセンターが時期の重複により開催を断っている催事が年間 50 件程度存在するとしている。

図表 新規 MICE 施設の需要予測結果

種別		参加者規模 (人)	開催件数			来場人数		
			低位シナリオ	中位シナリオ	高位シナリオ	低位シナリオ	中位シナリオ	高位シナリオ
M	国内	1,500	5	7	9	7,500	10,500	13,500
I	国内	1,500	1	2.5	4	1,500	3,750	6,000
	海外	1,500	7.5	12	15	11,250	18,000	22,500
C	国内学会	1,255	7	11	14	8,785	13,805	17,570
		2,161	1	2	4	2,161	4,322	8,644
		5,000	2	4	6	10,000	20,000	30,000
	国際学会	1,323	1	1.7	2.3	1,323	2,249	3,043
		2,376	0.2	0.3	0.5	475	713	1,188
		4,494	0.3	0.5	0.7	1,348	2,247	3,146
Ex※	沖縄大交易会	10,000	1	1	1	10,000	10,000	10,000
	離島フェア	10,000	1	1	1	10,000	10,000	10,000
	住居関係展示会	30,000	1	1	1	30,000	30,000	30,000
	自動車展示会	10,000	1	1	1	10,000	10,000	10,000
	その他(新規需要)	10,000	2	3	4	20,000	30,000	40,000
Ev	コンサート	20,000	3	5	7	60,000	100,000	140,000
		15,000	7	10	13	105,000	150,000	195,000
		10,000	12	15	18	120,000	150,000	180,000
	スポーツイベント	5,000	30	30	30	150,000	150,000	150,000
	沖縄国際映画祭	-	1	1	1	-	-	-
	ウチナーンチュ大会	-	0.2	0.2	0.2	-	-	-
その他	大学卒業式	2,000	1	1	1	2,000	2,000	2,000
	就職試験	1,000	1	1	1	1,000	1,000	1,000
OCC未対応分	県民向けイベント	1,300	43	43	43	55,900	55,900	55,900
計			129	154	178	618,242	774,486	929,491

出典：「大型 MICE 施設整備と街づくりへ向けた基本構想」概要版 平成 26 年 3 月

屋外のコンサート等のイベントは毎年開催されるようになってきているが、天候に左右され中止になる事も少なくない。また、コンサートにおいては、1 万人未満の規模では収益性が見込めないとの観点から誘致自体も難しいとの意見もある。

さらに、「ビジットおきなわ計画」では、観光客数 1 千万人を目指しており、MICE 関連事業、スポーツコンベンション関連事業による誘致も検討されている。さらに、大型化が進んでいる近年の学会等も施設の規模不足により需要を取り逃していることから、県人口の約 1%にあたる 1 万人規模の施設整備を行う事で、新たな需要にも対応できると考えられる。

関連団体ヒアリングからも、琉球ゴールデンキングスの公式戦が年間 30 試合程度、その他コンサート等も合わせると 1 万人規模の興行が 100 日程度（1 万人規模のコンサート 12～18 回、コンベンションセンター未対応分 50 回）見込むことができる。

県内の 5,000 人以下の類似施設では対応できず、域外流出を招いていること、県が構想する 20,000 人規模の施設と住み分けるためにも、1 万人規模の施設が妥当な規模だと考えられる。

7. 関連団体への意向調査

(1) 調査方法

コザ運動公園を利用している又は利用する可能性のある主な団体、周辺のまちづくり等に関わる団体を抽出し、各団体の代表者にヒアリング調査による意向調査を実施した。

< 意向調査の対象 (18 団体) >

関連団体	
▽沖縄市体育協会	▽ピーエムエージェンシー
▽沖縄市観光協会	▽琉球ゴールデンキングス
▽沖縄市中心市街地活性化協議会	▽沖縄県サッカー協会
▽まちづくり NPO コザまち社中	▽琉球コラソン
▽ピースフルラブロックフェスティバル実行委員会	▽琉球ドラゴンプロレスリング
▽沖縄観光コンベンションビューロー	▽沖縄タイムス社
▽沖縄商工会議所	▽琉球新報社
▽沖縄市観光ホテル旅館事業協同組合	▽沖縄県バレーボール協会
	▽沖縄県バドミントン協会
	▽DMC 沖縄

(2) 各スポーツ団体の利用意向

琉球ゴールデンキングスの利用見込みが得られたほか、Fリーグのセントラル開催、Vリーグの誘致等の可能性が見られる。また、プロスポーツ以外では、ハンドボールやバレーボールなどの各種大会利用が見込める。

琉球ゴールデンキングス (バスケットボール)	集客をメインとするアリーナならば、ホームゲーム時に集中的に利用できると考えている。
沖縄県サッカー協会 (フットサル)	劇場として機能する施設を望み、Fリーグの公式戦およびセントラルの開催を見込める。
琉球コラソン (ハンドボール)	リーグ戦には規模が大きすぎる為、現在は利用を見込めない。コラソンが主催するハンドボール大会などは考えられるが使用料が心配。
琉球ドラゴンプロレスリング	興行を行う会場としては現段階では大きすぎる。アリーナを目標として団体の体力を高めていきたい。
沖縄県バレーボール協会	種々大会の会場として利用が見込める。Vリーグの誘致も可能。ただし、サブアリーナなどの整備も必要。
沖縄県バドミントン協会	現時点では利用の見込みは少ない。日本リーグ等の開催にあたり、アリーナがあることで誘致しやすくなると考えている。

(3)コンサート等の催しの利用意向

有名アーティストのコンサートや各種展示会等のイベントについて検討できるほか、サーカスや展示会、各種参加型イベントの会場としての利用も可能。

ピーエムエージェンシー	現在行っているビックアーティストであれば可能と見込む。屋内で1万人規模であれば暑い時期、雨天等も左右されないので利用したい。
沖縄タイムス社	展示会や沖縄民謡フェスティバルなどが見込める。サーカスやコミックマーケット等も検討できるのではないかと。
琉球新報社	有名アーティストのアリーナツアーを検討でき、アジア圏からの誘客も可。ボクシング等の格闘技、スケートリンクを入れたアイスショーなども検討可能。

(4)関連団体ヒアリング総括

- ・アリーナ建設による経済効果、スポーツコンベンションの推進等への期待度について確認できた。
- ・屋内の1万人規模の施設はこれまでないが、スポーツイベント、コンサート等のイベントの需要について、bjリーグ、Fリーグ、コンサートのアリーナツアー等による利用の可能性を確認できた。
- ・バレーボール、ハンドボールなどの全国大会等についても利用の可能性を確認できた。
- ・MICEによる施設利用は週末よりも平日が多く、新たな需要喚起の可能性を確認できた。
- ・県内の他施設の動向や観光客の推移や交通インフラ整備などの把握、多言語対応、施設の差別化について指摘がなされた。
- ・観客動員数に合わせた客席の可変性、MICE 関連事業など臨機応変に対応できる施設が求められている。
- ・スポーツ興行を主体とする等、施設利用コンセプトの明確化、主目的の設定が重要と指摘された。
- ・観せるスポーツの為に施設において、施設全体で観客を楽しませることが最も重要であり、経済合理性を主軸に効率的な運営を行うなど、フィロソフィーの重要性が指摘された。
- ・エネルギーコストの削減、土間床などのベーシックな施設欲求など、運営面での最適化をはかることが非常に重要と指摘された。
- ・プロスポーツのホームアリーナとなる等、基礎票(定期的な利用見込み)となる利用者の確保が運営の安定化につながると指摘された。
- ・施設運営主体の資質について、国内外、県内外へのネットワークや、自主事業が可能なコンテンツホルダーなど高いプロモート力へも期待が寄せられている。
- ・経済効果について、宿泊業や飲食、物販等、付帯産業や関連産業の整備が求められ、周辺施設との関連性を高めるべきと考えられる。
- ・駐車場の問題が指摘され、駐車場の整備だけでなく、周辺交通計画、シャトルバス等による分散等、短時間に大容量の交通キャパシティが必要と指摘されている。
- ・利用のニーズに対応する運営方法が必要であること、利用料金設定の柔軟性、大規模イベントへの会場予約方法についての柔軟性などが指摘された。
- ・興行主体の事業性を高めることが施設稼働を担保し、施設運営の最適化を図ることで好循環につながると指摘された。

8. 類似施設の事例調査

(1) 県内の類似施設

沖縄県内には体育館等の体育施設が 31 施設、武道館が 11 施設、屋内運動場は 14 施設、野球場 46 施設、サッカー場 31 施設、陸上競技場 45 施設と合計 179 施設あり、これらは全てイベント会場、コンサート会場となり得る。また、県内の屋内施設では沖縄コンベンションセンターの展示棟が最大 5,000 人を収容する最も規模の大きな施設となっている。

＜県内の主な施設＞

名称	自治体 (人口)	供用開始年	階数 建築面積 延床面積	アリーナ 面積	付帯施設	席数
那覇市民体育館	那覇市 (32 万人)	昭和 62 年	地上 3 階・地下1階 5,278 m ² 10,114 m ²	2,586 m ²	サブアリーナ 812 m ²	3,135 席
沖縄市体育館	沖縄市 (13 万人)	平成 22 年	地上 2 階 5,208 m ² 6,354 m ²	2,160 m ²		2,123 席
沖縄コンベンション センター	宜野湾市 (9 万人)	昭和 62 年	地上 2 階 9,435 m ² 12,153 m ²	2,500 m ²	劇場棟 会議棟	2,140 席
沖縄県立武道館	那覇市 (32 万人)	平成 7 年	地上 2 階・地下1階 6,458 m ² 13,145 m ²	2,142 m ²		1,979 席
石川多目的ドーム	うるま市 (12 万人)	平成 17 年	地上 2 階 2,226 m ² 2,410 m ²	343 m ²		3,500 席

※席数は固定席及び可動式の客席の総数です。収容人数とは異なります。

(2) 近隣地域でのアリーナ計画

今後、新たに建設を予定している施設として下記の4施設が挙げられる。

① 豊見城市市民体育館

市民の健康維持・増進、スポーツ技術の向上に寄与する市民体育館という位置づけ。

- ・ 収容人数：2,000人規模
- ・ 豊見城市豊崎（豊崎総合公園整備事業地内）に建設
- ・ 平成26年12月竣工

② 浦添市（モノレール浦西駅周辺：平成26年11月26日付け琉球新報より）

大型商業施設、学校法人、マンション開発などを伴う土地区画整理事業として検討されている。

- ・ 収容人数：4,500人規模
- ・ 浦添市浦西地内にて建設予定
- ・ 沖縄都市モノレール延伸にともない、平成31年春の新駅開業に合わせ計画。

③ 北中城村（ライカム周辺：平成26年6月18日付け琉球新報より）

泡瀬ゴルフ場跡地利用として大型商業施設、医療施設とともに整備予定。

スポーツイベントで使用するほか、防災拠点としても位置づけるスポーツアリーナ

- ・ 収容人数：3,000人規模
- ・ 北中城村の泡瀬ゴルフ場跡地にて建設予定
- ・ 平成27年度に実施設計、平成28年度着工、平成31年度に利用を開始する計画。

④ 沖縄県が推進する MICE 施設（平成26年8月9日付け琉球新報より）

多目的ホール、展示場、中小会議室から構成される最大2万人収容の MICE 施設

- ・ 収容人数：20,000人規模
- ・ 豊見城市、那覇市、浦添市、宜野湾市、与那原・西原町の5市町村が候補地。
- ・ 平成32年年の供用開始予定

今後、5,000人以上収容の大型施設は沖縄県が推進する MICE 施設のみで、スポーツコンベンションの推進を掲げている施設は浦添市および北中城村となっている。

(3) 県外の類似施設

県外の類似施設について主な施設を下の表にまとめた。

<県外の類似施設一覧>

NO	通称 (名称)	管理	用途区分 A:単独型 B:運動公園型 C:多機能・複合型	自治体名 (人口)	供用 開始年	階数 建築面積 延床面積	メイン アリーナ	サブ アリーナ	観覧席 うち可動席 うち障害者席	維持費管理経費 (万円)	
										H23	H24
1	インドアスタジアム (リージョンプラザ上越体育館)	指定管理	C	アリーナ ホール プール 上越市 20万人	S59	地上1階・地下3階 11,464㎡ 15,885㎡	2,812㎡ バスケ 4面 バレエ 4面		3,476席 2,225席 8席	8,194	8,571
2	シティーホールプラザ 「アオーレ長岡」アリーナ	指定管理	C	アリーナ 駅ビル 市役所 長岡市 28万人	H24	地上4階・地下1階 12,066㎡ 35,485㎡	2,123㎡ バスケ 3面 バレエ 4面		3,568席 616席	アリーナ 単独で算 出不可	アリーナ 単独で算 出不可
3	ありそドーム (魚津テクノスポーツドーム)	指定管理	A	アリーナ 魚津市 4万人	H10	地上2階 2,400㎡ 9,435㎡ 12,153㎡	バスケ 3面 バレエ 3面		3,869席 1,720席 8席	10,322	10,718
4	行田グリーンアリーナ (行田市総合体育館)	指定管理	A	アリーナ 行田市 8万人	H7	地上2階 2,541㎡ 8,360㎡ 10,989㎡	バスケ 3面 バレエ 3面	652㎡ バスケ 1面 バレエ 1面	2,886席 1,344席 18席	-	-
5	さいたまアリーナ	指定管理	C	アリーナ サッカー場 他 さいたま市 122万人	H12	地上7階・地下1階 43,730㎡ 132,397㎡	7,100㎡ バスケ 1~2面 バレエ 1~4面	7,500㎡ バスケ 2面 バレエ 2面	2,650席 7,500席 30席	310,600	330,000
6	船橋アリーナ (船橋市総合体育館)	指定管理	A	アリーナ 船越市 61万人	H6	地上3階・地下1階 13,019㎡ 20,031㎡	2,357㎡ バスケ 3面 バレエ 3面	839㎡ バスケ 1面 バレエ 2面	4,645席 1,645席	アリーナ 単独で算 出不可	アリーナ 単独で算 出不可
7	千葉ポートアリーナ	指定管理	A	アリーナ 千葉市 96万人	H3	地上3階・地下2階 - 19,509㎡	2,730㎡ バスケ 3面 バレエ 3面	769㎡ バスケ 1面 バレエ 1面	7,652席 3,256席 16席	22,300	23,542
8	アミューズ豊田体育館	指定管理	C	アリーナ ホール 福祉施設 磐田市 16万人	H6	地上2階 7,048㎡ 8,234㎡	1,634㎡ バスケ 2面 バレエ 3面	497㎡ バスケ 1面 バレエ 1面	830席 570席	42,168	42,800
9	浜松アリーナ	指定管理	A	アリーナ 浜松市 79万人	H2	地上3階 14,135㎡ 20,491㎡	2,860㎡ バスケ 3面 バレエ 4面	1,360㎡ バスケ 2面 バレエ 2面	9,007席 1,056席 8席	16,100	16,472
10	三重県営サンアリーナ	指定管理	C	アリーナ 伊勢市 12万人	H6	地上3階 - 24,312㎡	3,489㎡ バスケ 4面 バレエ 4面	1,746㎡ バスケ 2面 バレエ 2面	14,000席 8,018席	31,877	32,079
11	パークアリーナ小牧 (小松市スポーツ公園総合 運動公園)	指定管理	B	アリーナ サッカー場 小牧市 14万人	H13	地上2階 13,837㎡ 16,733㎡	2,600㎡ バスケ 3面 バレエ 3面	1,400㎡ バスケ 2面 バレエ 2面	3,302席 1,120席 14席	20,207	20,173
12	ウイングアリーナ刈谷	指定管理	B	アリーナ サッカー場 陸上競技場 刈谷市 14万人	H19	地上2階 10,430㎡ 14,570㎡	2,000㎡ バスケ 2面	1,184㎡ バスケ 2面	2,524席 800席 8席	57,827	25,775
13	日本ガイシスポーツプラザ (名古屋市総合体育館)	指定管理	A	アリーナ プール 名古屋市 226万人	S62	地上3階・地下1階 23,963㎡ 31,833㎡	3,646㎡ バスケ 3面 バレエ 4面	1,638㎡ バスケ 2面 バレエ 2面	1,048席 5,000席	91,746	87,083
14	で愛ドーム (岐阜メモリアルセンター 第一体育館)	直営	B	アリーナ サッカー場、テニス場 陸上競技場 岐阜市 41万人	H元	地上3階・地下1階 5,410㎡ 8,647㎡	2,200㎡ バスケ 2面 バレエ 3面	1,687㎡ バスケ 2面 バレエ 3面	5,170席 1,680席 28席	アリーナ 単独で算 出不可	アリーナ 単独で算 出不可
15	ハンナリーズアリーナ (京都市体育館)	指定管理	A	アリーナ 京都市 147万人	S38	地上3階 4,365㎡ 8,316㎡	2,400㎡ バスケ 3面 バレエ 3面		2,926席	8,166	16,863
16	グリーンアリーナ神戸 (神戸総合運動公園体育 館)	指定管理	B	アリーナ サッカー場、テニス場 陸上競技場 神戸市 154万人	H5	地上3階・地下1階 9,175㎡ 1,8276㎡	2,530㎡ バスケ 3面 バレエ 3面	910㎡ バスケ 1面 バレエ 1面	5,172席 1,814席	11,160	10,858
17	ローズアリーナ (福山市緑町公園屋内競 技場)	指定管理	A	アリーナ兼 プール 福山市 46万人	H7	地上2階・地下1階 5,982㎡ 13,113㎡	2,800㎡ バスケ 3面 バレエ 4面		2,561席 6席	65,533	65,446
18	広島グリーンアリーナ (広島県立総合運動公園)	指定管理	A	アリーナ プール 広島市 117万人	H6	地上3階・地下2階 10,300㎡ 50,079㎡	バスケ 4面 バレエ 4面	バスケ 2面 バレエ 2面	7,340席 2,040席	60,399	65,262
19	ニューウェーブ (鹿児島総合運動公園)	指定管理	C	アリーナ ホール プール 松江市 20万人	H10	地上2階・地下1階 6,500㎡ 8,056㎡	2,030㎡ バスケ 2面 バレエ 4面	760㎡ バスケ 1面 バレエ 1面	1,190席	9,011	9,031
20	アクション福岡 (県立スポーツ科学情報セ ンター)	指定管理	A	アリーナ 福岡市 149万人	H7	地上4階・地下1階 8,700㎡ 23,656㎡	1,794㎡ バスケ 2面 バレエ 2面	884㎡ バスケ 1面 バレエ 2面	2,000席 840席	18,767	18,892
21	アリーナかぶとがに 長崎県立総合運動公園	指定管理	A	アリーナ 長崎市 44万人	H6	地上4階 11,680㎡ 16,220㎡	2,424㎡ バスケ 3面 バレエ 3面	1,313㎡ バスケ 2面 バレエ 2面	5,600席 1,724席	14,800	15,198
22	ダイハツ九州アリーナ (中津市総合体育館)	指定管理	B	アリーナ 野球場 サッカー場 中津市 8万人	H20	地上2階 2,780㎡ 5,978㎡	2,000㎡ バスケ 2面 バレエ 3面	800㎡ バスケ 1面 バレエ 1面	1,700席 700席	-	-
23	べっぴんアリーナ (別府市総合体育館)	指定管理	A	アリーナ 別府市 12万人	H15	地上3階 9,992㎡ 20,735㎡	2,888㎡ バスケ 3面 バレエ 4面	1,330㎡ バスケ 1面 バレエ 2面	4,482席 1,788席	8,200	8,396
24	ビーコンプラザ (別府コンベンションセン ター)	指定管理	C	アリーナ ホール 別府市 12万人	H7	地上4階・地下3階 12,830㎡ 32,453㎡	2,756㎡ バスケ 1面 バレエ 1面		4,108席 1,666席 10席	34,823	37,015
25	鹿児島アリーナ	直営	A	アリーナ 鹿児島市 60万人	H4	地上3階・地下1階 13,570㎡ 29,023㎡	4,486㎡ バスケ 3面 バレエ 4面	1,008㎡ バスケ 1面	5,688席 1,658席	19,358	18,098

(4) 県外事例調査

国内には数万人規模の広域誘客施設として稼働するアリーナが多数存在し、地域により人口規模やアクセス利便性などの環境が異なるが、施設の設計や運営について、それぞれ多くの工夫がなされている。こうした取組みを担当者に直接伺い、施設整備や運営の方針に活かす為の情報を得た。

視察先の選定にあたっては、同規模の施設、施設の機能面で参考になる施設、運営面で参考となる施設などを考慮して対象を絞り込み、県外視察の効率性を加味して下記の6施設とした。

<視察対象施設>

名称	自治体 (人口)	供用開始年	延床面積	アリーナ 面積	付帯施設	収容人員
①マリンメッセ福岡	福岡市 (152万人)	平成6年	40,631 m ²	8,000 m ²	サブアリーナ	15,000人
②福岡国際センター	福岡市 (152万人)	昭和56年	13,085 m ²	3,425 m ²		10,000人
③マツダスタジアム	広島市 (119万人)	平成19年	12,710 m ² (グラウンド)			33,000人
④ワールド記念ホール	神戸市 (154万人)	昭和59年	13,325 m ²	3,100 m ²		8,000人
⑤大阪市中央体育館	大阪市 (269万人)	昭和52年	42,665 m ²	3,580 m ²	サブアリーナ	9,500人
⑥大阪府立体育館	大阪府 (885万人)	昭和62年	28,318 m ²	3,010 m ²	サブアリーナ	6,000人

<対象施設の主な特徴>

名称	主な特徴
①マリンメッセ福岡	15,000人規模のイベントホール。多用途に対応可能な施設であり、電気や給排水、都市ガスのピットが整備され、複数の可動席により多彩な運営プランを実現している。
②福岡国際センター	マリンメッセ福岡に隣接する10,000人規模の施設。マリンメッセ福岡と同様に多用途に対応可能な施設であり、大相撲や各種格闘技の興行などが開催される。
③マツダスタジアム	パーティフロアやタタミ席などユニークな観戦スタイルも提供している野球場。ネーミングライツだけでなく、施設の運営も球団(広島カープ)が行うなど、運営面での工夫が見られる。
④ワールド記念ホール	8,000人規模の多目的ホール。コンサート等の催しを中心に行うほか、防災施設としての機能も有する。
⑤大阪市中央体育館	都市公園法による建築面積の規制に対し、建物を客土で覆うことで、建築面積の緩和措置を受けている施設。
⑥大阪府立体育館	ネーミングライツの販売を行うほか、大相撲の大阪場所の開催、bjリーグのエヴェッサ大阪のホームとなるなど各種興行で使われることが多く、公設民営だが、利用料収入により施設の運営を行っている体育館。

① マリンメッセ福岡

平成6年8月に利用が開始された福岡市立のコンサートホール・コンベンションセンターであり、指定管理者として一般財団法人福岡コンベンションセンターが運営している。施設は地上4階、地下2階で、アリーナ部分の面積が8,000 m²と大きい。また、最寄り駅の地下鉄呉服駅からは1 km以上離れているため、博多駅等からの直通バスの利用も多い。

施設は、海沿いのコンベンションゾーンの中心的に位置に配置され、海に開かれたインテリア、自然光と大空間などの設計思想を採用しているため、アリーナ内部にも開口部があり、自然光を受入れる設計になっている。



▲外観（正面玄関側）



▲外観（特徴のある波型の屋根）

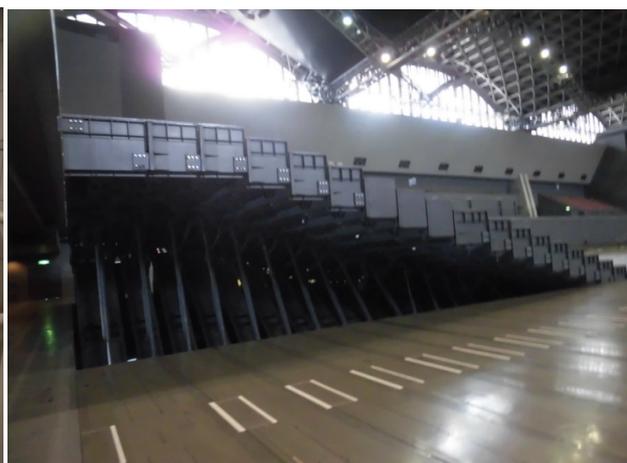
■ 施設名称	マリンメッセ福岡
■ 用途	多目的ホール
■ 収容人数	最大 15,000 人
■ 事業主体	福岡市
■ 管理運営	一般財団法人福岡コンベンションセンター(指定管理)
■ 延床面積	40,631 m ² (アリーナ面積約 8,000 m ²)
■ 竣工	平成6年
■ 所在地	福岡県福岡市博多区沖浜町7番1号

<視察内容と特徴>

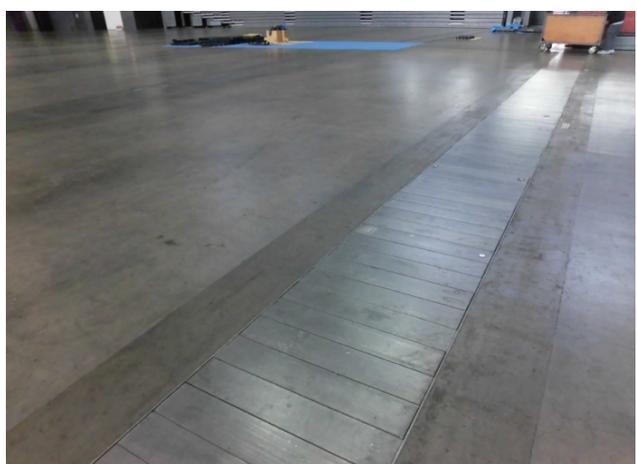
- ・年間の企画、運営は館の重要な部門であり、専属の職員を配属しイベントの誘致、集客の工夫等を行っている。
- ・アリーナはコンクリートの土間で5 t/m²の荷重を支えられる構造であり、電気、給排水、都市ガスが利用できる床ピットが用意されている。また、大型トラック（20 t）が乗り入れ可能な2ヶ所の搬入口により、イベント等の設営や撤収を効率的に行えるようになっている。
- ・固定席、昇降席、スライド式の可動席、仮設席などの組み合わせにより、多彩な設営プランが実現できる。
- ・大きなイベントの場合、女子トイレが混雑する為、男子トイレを一部、女子トイレに変える工夫を行っている。



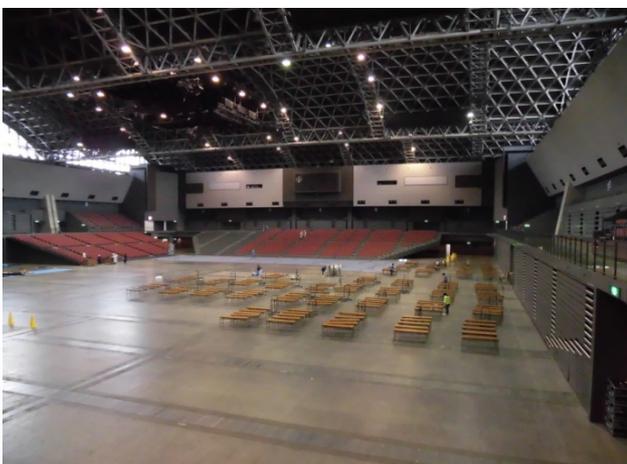
▲男子トイレ



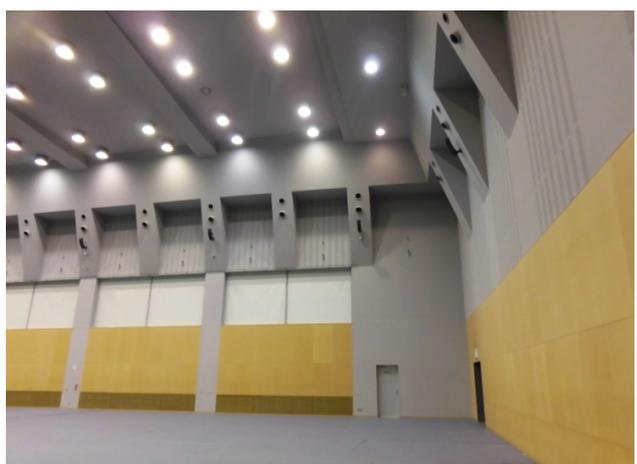
▲昇降席（1階アリーナ部分）



▲アリーナ床（土間コンクリート、床ピット）



▲アリーナ部分



▲サブアリーナ



▲2階部分の広い廊下

②福岡国際センター

昭和56年10月に開業したコンベンションホール。マリンメッセ福岡と同じく、一般財団法人福岡コンベンションセンターが指定管理者となり運営している。地上3階、地下1階の施設で、収容人員は最大1万人となっており、毎年8月のサーカスの興行、11月の大相撲（九州場所）、12月は全日本選抜柔道体重別選手権大会の会場として使用されている。

マリンメッセ福岡と平成15年に完成した福岡国際会議場もあわせ、一体のコンベンションセンターエリアを構成しており、マリンメッセ福岡と同様に会場までのアクセスは、博多駅等からのバスが多く利用されている。

そのほか周辺施設として、ベイサイドプレイス 博多埠頭、博多港国際ターミナルがある。



▲外観（正面玄関側）



▲外観（正面玄関側）

■ 施設名称	福岡国際センター
■ 用途	多目的ホール、体育館
■ 収容人数	10,000人(1階:約6,000人、2階:約2,500人、3階:約1,500人)
■ 事業主体	福岡市
■ 管理運営	福岡コンベンションセンター(指定管理)
■ 延床面積	13,085㎡
■ 階数	地上3階・地下1階
■ 竣工	昭和56年10月
■ 所在地	福岡県福岡市博多区築港本町2-2

<視察内容と特徴>

- ・隣接している福岡マリンメッセと福岡国際センターは同じ指定管理者が管理しているため、規模やイベント内容で使い分けが行える。
- ・形状が日本武道館の様に正方形に近い形になっており、大相撲九州場所の会場として利用されるほか、間仕切りの無いフラットな空間は、最大1万人が収容可能な空間として、展示、コンサート、集会やスポーツイベントなど多用途に活用されている。
- ・床は土間コンクリートになっており、多様なイベント等にも対応可能な造りとなっている。



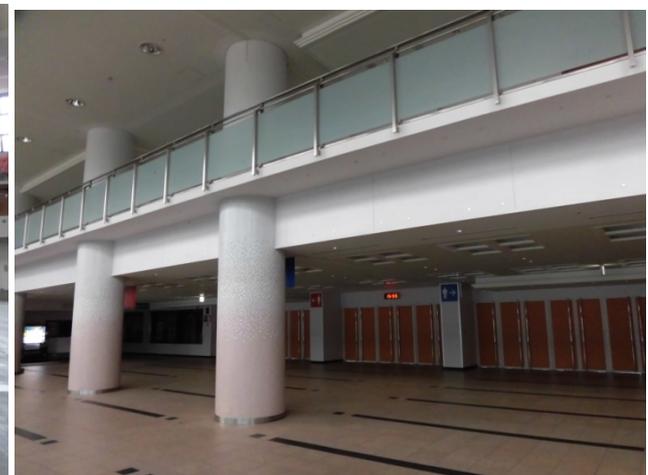
▲床と天井



▲天井のバトン



▲アリーナへの搬入口



▲広いエントランスホール



▲エントランスにある売店



▲アリーナ横の広い通路

＜マリンメッセ福岡及び福岡国際センター担当者ヒアリング概要＞

- ・都市の規模に合わせたアリーナでないと運営は難しいと思う。因みに、マリンメッセ周辺の人口は福岡市で150万人、近郊を入れると400万人になる。
- ・宿泊施設が近くになく、10,000人規模の興行を行う際は、移動手段として、駅まで歩く人が4,000人程度、バスで4,000人程度、そして残り2,000人程度がタクシーや車で移動するため、公共機関と協力や調整が重要である。
- ・展示会見本市は何十社、何百社の企業を集めて開くので魅力的ですが、近郊に企業やバイヤーがいないと展示会を開いてもお客さんは来ない。
- ・リピーターを増やさないと稼働率にも収益にもつながらない。リピーターをどのようにして増やすかで、管理運営の計画が立てやすくなる。
- ・5～7月上旬また、9～11月はコンサートが多いが、アーティストのリピーターや、8000人規模のコンサートはなかなか難しい。
- ・施設竣工から10年程度は大規模な修繕等の問題はない、ただし、10年を越えると修繕費が課題となるため、短期、長期の修繕計画を立てる必要がある。
- ・マリンメッセは工事費を330億円かけて建設したが、可動席や大型スクリーンの維持管理費用、また、屋根が特徴のある形をしているので雨漏り等で修繕費がかかっている。最近では、大型スクリーンを6.5億円かけて修繕し、二カ月間休館した。
- ・マリンメッセ福岡は今年で竣工して20年になるので長期の修繕計画をたてて、二ヶ月間程度、休館し工事を行う。修繕工事を行うには、何ヶ月間か休館する必要があり、その間は興行を行えない為、収益に大きな影響がでる。
- ・本施設は、250万円以下の修繕費は指定管理者が行い、それ以上は福岡市が負担するようになっている。

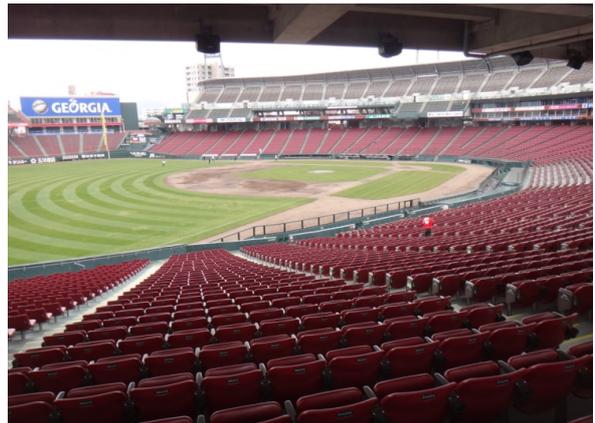
③ マツダスタジアム

広島東洋カープが本拠地としている野球場であり、所有者は広島市となっている。老朽化した初代の広島市民球場に代わる施設として、広島市が主体となり、平成21年に竣工した。広島東洋カープが指定管理者として管理運営を行い、マツダが平成21年4月から施設命名権を取得（平成25年8月に契約更新）、「MAZDA ZOOM-ZOOM スタジアム広島」（略称「マツダスタジアム」）とした。

施設はJR広島駅南口から徒歩10分程度の位置にあり、JR線の車窓から球場内が見えるなど、ランドマークとしての役割も果たす。



▲外観（正面玄関側）



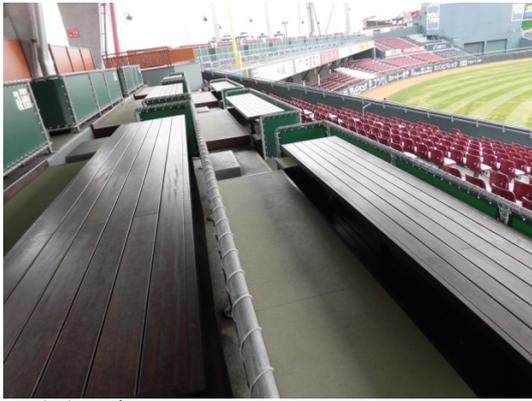
▲スタンドからグラウンドを見たアングル

■ 施設名称	MAZDA Zoom-Zoom スタジアム広島
■ 用途	野球場
■ 収容人数	33,000人
■ 事業主体	広島市
■ 管理運営	広島東洋カープ(指定管理)
■ 球場規模	グラウンド面積:12,710㎡
■ グラウンド	内・外野 - 天然芝(ティフトン419、ペレニアル・ライグラス)
■ 竣工	平成19年11月
■ 所在地	広島県広島市南区南蟹屋2-3-1

〈視察内容と特徴〉

- ・臨場感ある観戦環境、機能的かつコスト配分のメリハリ等、MLBスタジアムを参考にした施設。
- ・野球を観ることだけではなく、観客のニーズの拡大を目指しており、多様な観戦スタイルで、小さな子どもから年配の方まで、3世代が楽しめる場所として観客席に様々な工夫を施している。

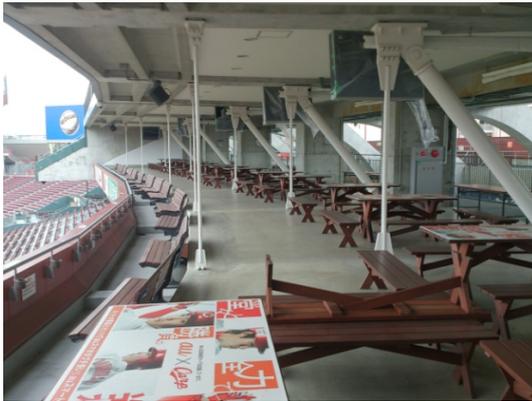
▲パーティグリル席
(バーベキューを楽しみながら、グループで観戦可能)▲寝ソベリア席
(座って観ても寝転がって観ても、楽しみ方は自由な空間)



▲タタミ席
(靴を脱いで座る掘りごたつ席、リラックスして観戦出来る)



▲コージーテラス席
(上段で応援、下段でお食事。2段ベンチが楽しみを広げる)



▲パーティフロア席
(20~200名まで、様々なパーティーを自由に企画できる)



▲ゲートブリッジ席
(広い空中通路にあり、眺めもよい。落ち着いて観戦が出来る)



▲テラスシート席
(ガラス張りの手摺、快適なシートで長時間の観戦も疲れない)



▲コンコース
(売店等のスペースにゆとりがあり、大人数に対応)



▲災害時のマンホール
(災害時にはマンホールの上に仮設トイレを設ける)



▲車椅子スペース
(コンコースにある車椅子スペースと補助席)

<マツダスタジアム担当者ヒアリング概要>

- ・ 球場を周回する幅広で段差のないコンコースがあり、多数の売店・トイレが用意されている。また、どの位置からでもフィールド上の選手のプレーを観ることができるようになっている。
- ・ ユニバーサルデザインに対応した車椅子利用者のためのスペースがあり、エレベーターを使えば球場内のあらゆる場所へアクセス可能である。また、オストメイト対応型多目的トイレ、授乳室等も用意されている。
- ・ 指定管理者制度により、コンコース内の売店の設置、球場内の看板広告などある程度の自由度が認められており、球団が商社と提携し球団のグッズショップや飲食物販などでも成功している。

④ワールド記念ホール

昭和59年に整備された地上3階、地下1階で8,000人収容の多目的ホールである。正式名称は神戸ポートアイランドホールだが、各メディアともワールド記念ホールの名称を使用している。ワールド記念ホールという名称は株式会社ワールドからの寄付金20億円を基に神戸市が施設を整備したことから付けられたものであり、命名権によるものではない。

アクセスはポートライナーの市民広場駅から徒歩3分程度となっており、各種コンサートや屋内スポーツ競技の会場として利用されている。



▲外観（正面玄関側）

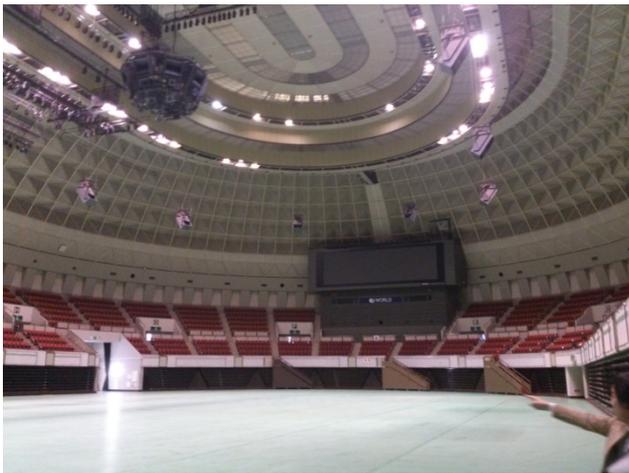


▲外観（正面玄関側）

■ 施設名称	神戸ポートアイランドホール
■ 用途	多目的ホール
■ 収容人員	最大 8,000 人
■ 事業主体	神戸市
■ 延床面積	13,325 m ²
■ 管理運営	公益財団法人神戸市スポーツ教育協会、株式会社神戸国際会館 株式会社アシックス共同企画の共同事業体(指定管理)
■ 竣工	昭和59年8月
■ 所在地	兵庫県神戸市中央区港島中町 6-12-2

〈視察内容と特徴〉

- ・コンサートイベントを中心とした施設となっている。
- ・ライブの会場として国内外の著名アーティストに幅広く利用されている。
- ・施設の広さを活用したイベントとして、1,000人超のチェリストが一堂に会して演奏を行った実績があり、非定期的に行われている。
- ・地元神戸大学の入学式や学位授与などの会場として毎年使用される。
- ・コンサートイベントでは女子の比率が多いため、男子トイレを女子トイレに変更する。



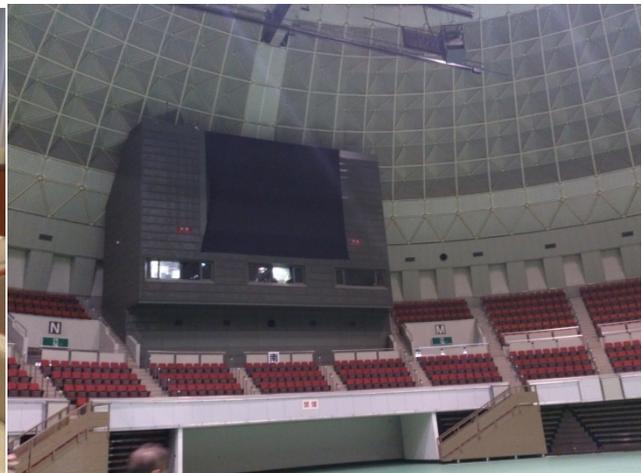
▲アリーナと天井



▲天井のバトン



▲豪華な貴賓室



▲大型映像装置



▲男子トイレ
(小便器部分をカーテンで覆い女子トイレに変更する)



▲搬入口
(道路の近くにある搬入口)

＜ワールド記念ホール担当者ヒアリング概要＞

- ・ 施設へのアクセス手段はポートライナーのみとなっているが、無人列車なので必要に応じて調整が出来る。また、周辺に1,000台程度の民営の駐車場がある。
- ・ ポートライナーは1便で約400人の乗車が可能なので、3分間隔で運行して、30～40分で5,000人近くは移動が可能である。
- ・ 人工島内に三カ所のホテルがあり、年間12,000～15,000人程度が宿泊するので、少しは貢献できていると思う。
- ・ サブアリーナが無い場合、全国大会規模のスポーツ大会は開催が難しい。
- ・ コンサートを行う場合、通常11t車で30台程度、有名なアーティストになると50～60台程度が搬入搬出のために出入りすることになる。
- ・ 器材の搬入は排気ガスの問題等がありアリーナ部分まで、トラックの出入りは難しい。
- ・ 経年劣化による修繕費の問題があり、指定管理者の方で修繕計画を作成し大きな物は神戸市の方で直接契約し修繕することになっている。
- ・ 本施設は天井に吊り物を吊る場合は、1.5t程度の制限がかかる。
- ・ 当初は床に、1㎡当りの荷重が500キロもある硬くて重いフローリング材を使用していたが、現在は取り取り除き、世界スポーツ協会公認の国産製マットを敷いており、それによって床は2tまでは荷重に耐えられるようになった。
- ・ 去年、床の修繕費で6～7,000万円程度、大型映像装置の電光掲示で1億2000万円程度の費用を要した。さらに、空調設備を全面的にやり直すと約1億円程度かかる見込み。
- ・ 竣工して10年目にコストをかけて計画的に修繕を行わないといけなかったが、ちょうどその時に、阪神・淡路大震災があり、うまく出来なかった。
- ・ コンサートの際は7:3の割合で女性が多く、男性用のトイレを女性用に変える工夫を行っている。
- ・ 7,000人の集客施設であれば、外部にも7,000人が集合できるスペースが必要である。また、会場までの距離がある程度あったほうが、人が整理される。
- ・ 最新の器材を色々整えるよりは、天井に多様な物が吊れる様にしたり、電源を設けたり、環境整備をした方が良い。
- ・ 近年は過激な演出も増えているため、30t程度を吊れるフックを施設に備えてあれば対応可能と考える。
- ・ 本施設は搬入口が二ヶ所あり、道路と搬入口のレベルがほぼ同じなので器材等の搬入が容易になっている。ただし、その部分に屋根が無いので雨天時は良くない。
- ・ バトン設備などはセレモニーとか全国大会とかには、使い勝手は良いがコンサートの場合は自由度をうばってしまい、邪魔なことがある。
- ・ 本施設は避難所になっており市が管理する備蓄倉庫がある。コンサート中に震災が発生した場合、津波か地震かにより、外に避難させるか、施設内に避難させるか判断が必要となる。地震の場合は吊り物等の落下により室内が危険であり、津波の際は外が危ないのでスタンド席の2階部分に誘導する。また、大震災でも建物は大丈夫だった。

⑤大阪市中央体育館

大阪市港区にある八幡屋公園内に整備された市営体育館。平成9年に建設された地下3階の施設には、メインアリーナとサブアリーナがあり、地下鉄中央線朝潮橋駅に隣接している。

■ メインアリーナ

収容人員1万人。バスケットボール・バレーボール・テニスのコート4面、ハンドボールコート2面などが取れる。各種国際大会・国内大会規模のイベント対応。プロボクシングの試合も行われたことがある。

■ サブアリーナ

収容人員188人。バスケットボール・バレーボールコート2面、テニスコートが1面取れる。主に市民大会規模のものに使われる他、メインアリーナのイベントの控え室としても活用できる。

■ 柔道場、剣道場、大会議室（200名）、中会議場（100名）、小会議場室3室（各30名）



▲外観（正面玄関側）

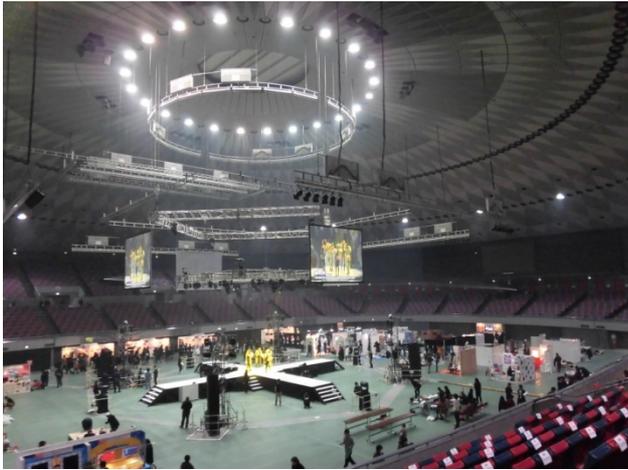


▲土に覆われている雰囲気わかる模型

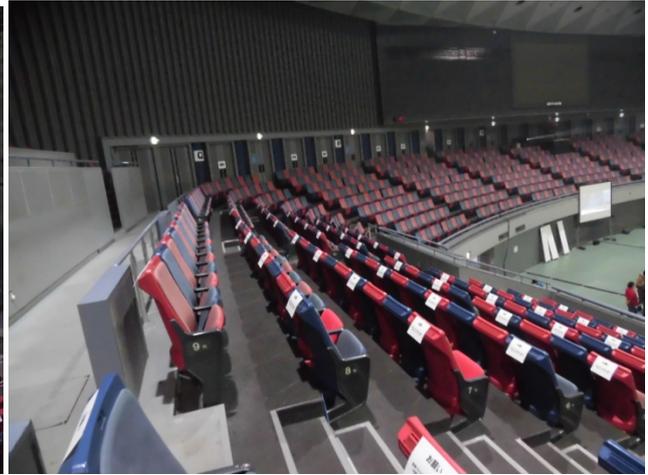
■ 施設名称	大阪市中央体育館
■ 用途	屋内スポーツ
■ 事業主体	大阪市
■ 管理運営	一般財団法人大阪スポーツみどり財団(指定管理)
■ 延床面積	42,664.90 m ²
■ 階数	地下3階
■ 竣工	平成9年
■ 所在地	大阪府大阪市港区田中三丁目1番40号

<視察内容と特徴>

- ・都市公園法による建築面積の規制で、建物自体を地下埋設し建築面積を小さくする工夫をしており、上部を盛土し、緑化して公園の一部として活用している。
- ・各種の競技や練習場としての施設が充実しており、全国規模のコンサートや競技など、市民のイベントや運動施設として活用している。
- ・午前、午後、夜間に分けて運営を行っており、午前が空いていても午後や夜間に何らかの催し物が入っている場合が多く、一日が完全に空いてる日はほとんど無い。



▲アリーナと天井
(多様なバトン設備)



▲観覧席



▲広いサブアリーナ



▲通路部分にある丸柱 (掲示版)



▲ドライエリア



▲建物上部の遊歩道

＜大阪中央体育館担当者ヒアリング概要＞

- ・ 大阪市中央体育館はスポーツに特化した施設だが、基本的には多目的施設であり、コンサート等も可能である。
- ・ 交通アクセスとしては、駅が近いので、お客さんはほとんどが電車である。多数のお客さんが来場すると予想された場合は、鉄道会社と打合せし、乗降客に混乱がない様、出入口を二カ所に分けている。また、駐車場は 125 台しかない。
- ・ スポーツで多いのは主にバレーボールで、国際大会を毎年行っている。Vリーグや細かな全国大会もあり、バスケットボールや卓球、体操等も行う為、スポーツ全般を受け入れている。
- ・ フットサルを行う施設であれば、壁を強固にしないといけないので、注意した方が良い。
- ・ 国際大会や興行を行うので年間を通して土日はほとんど埋まっている。稼働率は準備期間を入れてメインアリーナで 90%程度になる。平日は市の施設という立場上、地域の方々のスポーツの場として受け入れている。稼働率は高いが、利益には反映されない。
- ・ 市からの指定管理料は年々減っており、稼働率は 90%と高いが、ランニングコストが高く、毎日プロスポーツの興行を入れないと運営は難しい。また、光熱費や設備の点検費、保守点検などのコストが非常に大きい為、コストを抑える計画を最初から立てておくべき。
- ・ 利用料は、プロ興行の場合は一日 155 万円位になり、土日は二割増しになる。メインアリーナで入場料を徴収しないものとして、アマチュアスポーツ、レクリエーション、入学式、集会、ヘアコンテスト等がある。市の施設のため、営利を目的としない催し物が多い。
- ・ bjリーグは二節程度行っており使用料はトータルで 450 万円程度となっている。
- ・ コンサートもやっているが地盤が緩く、何千人かでジャンプすると周囲の民家に迷惑をかけてしまう。基本的にジャンプを禁止し、地域住民のご理解を得るために努めている。
- ・ アリーナの床をキズ付けない様にウレタンマットを二重（厚さ 4.5 cm）に敷きその上にフロアシートを敷いて、客席を設営している。また、アリーナにステージや重量物を設置する場合はフロアシートを敷いた上に、コンパネを敷く様にしている。
- ・ アイスショーを行う際は、アリーナ床に水が漏れないように 20～40mの一枚物のシートを敷きその上に断熱材を敷きさらにもう一回シートをプール状して厚さ 2～3 cm くらいの氷を造る。また、氷を造る場合は、冷凍機とか発電機等が必要で、屋外にスペースが必要になる。
- ・ アリーナ部分の基礎は、施工業者の特許工法で、マットスラブ工法で造られている。
- ・ 建ぺい率は、都市公園法で当初 2%を緩和処置で 7%としたが、公園敷地の内に大阪プールがありそのまま建てた場合は 7%を超えてしまう為、アリーナ部分を地下に埋め屋根部分のみを建築面積としクリアした。
- ・ 屋根をシェル球面工法にて施工し、その上に 1m程度の土を被せている。建物の特性として、防水が課題となり、ステンレス防水を施しているが経年変化で漏水が出てきて修繕費がかかっている。
- ・ 災害時は、施設の上に 3,000 人が避難できるスペースがある。その他の避難場所は公園内の芝生広場となっている。

⑥大阪府立体育館

各鉄道路線等が乗り入れる難波駅から徒歩5分程度の場所にあり、約6,000人を収容可能な体育館。竣工は昭和62年、地上4階、地下2階の施設であり、平成18年から南海電鉄が指定管理者となり、運営管理を子会社が受託して行っている。

平成20年には大阪府が、財政改革の一環で大阪府立体育会館の売却・廃止の方針を出したが、運営費削減などの改善により維持された。また、平成24年にBB-SPOTRS社に命名権を売却し、施設名を「BODYMAKER コロシウム」に変更した。

主に大相撲の三月場所、プロボクシング、プロレスなどの格闘技、全日本男女選抜バレーボール大会、プレミアムリーグ、bjリーグの試合会場として利用されている。



▲外観（正面玄関側）



▲広い正面玄関

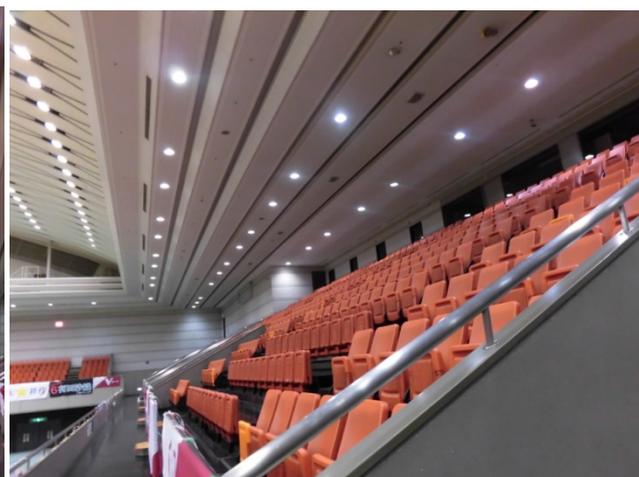
■ 施設名称	BODYMAKER コロシウム
■ 用途	屋内スポーツ
■ 収容人員	最大 6,000 人
■ 事業主体	大阪府
■ 管理運営	南海ビルサービス株式会社(指定管理)
■ 延床面積	28,318 m ²
■ 竣工	昭和 62 年 1 月
■ 所在地	大阪府大阪市浪速区難波中三丁目4番36号

〈視察内容と特徴〉

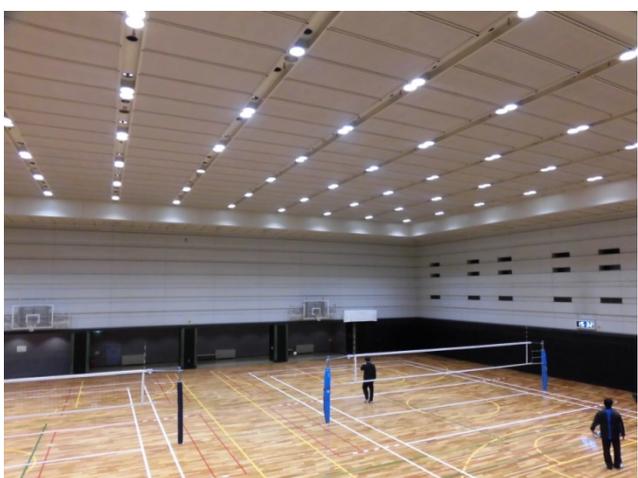
- ・大相撲の興行を核とした施設であり、建物もそのように設計されている。
- ・サブアリーナの上にメインアリーナがあり、興行を同時に行うことができる。
- ・年間の稼働率は高く、80%程度を維持している。
- ・施設自体で利益を出して運営することになっており、大阪府からは補助金、運営費は一切受け取っていない。



▲アリーナの天井



▲すり鉢場の観覧席



▲サブアリーナ



▲荷解室



▲正面玄関部分に設けた喫煙スペース



▲貴賓室

<大阪府立体育館担当者ヒアリング概要>

- ・ 関西空港から、電車一本で来ることができる駅の側にある施設で、立地条件が良く、宿泊施設も側にある。
- ・ 都会の中心部にあり、狭隘な土地に建設された施設のため、横に広げることが出来ず、上下に施設を設けた建物で地下2階、地上4階、また、アリーナは2階に設けており3~4階が観覧席になっている。
- ・ 当初、大相撲誘致のために建設した施設であり、造りが左右対象になっている。また、広い荷捌きスペースが2階にあり大相撲の際は支度部屋として使用されている。
- ・ 器材等の搬出搬入の際は搬入経路が1ヶ所しかないので、どうしても集中してしまい使い勝手が悪い。
- ・ コンサートは、音響とか器材の設営の経費がかかる。また、周辺にマンションが隣接しているため、音の問題がある。
- ・ 本施設は指定管理となっているが、平成12年度より利用料金制度となり、施設の収益で運営することになっている。また、府からは、補助金、委託費は一切、受取っていない。
- ・ 管理運営については、130%の売り上げがでた場合、その30%を指定管理者と府とで折半になる。また、90%しか売り上げなかった場合は、残りの-10%分は指定管理が負担しないといけない。
- ・ 稼働率は良く、保守点検や休館日や売上等を考慮して70~80%位である。また、大きなイベントに対応するために、年間スケジュールの年末の土日は空けている。
- ・ 大阪府の施設であるが、一般の方に使用して頂くより興行目的のイベントに使用してもらわないと運営が難しい。
- ・ bjリーグの大阪エヴェッサが年間に3回~4回程度試合を行っている。ここがホームアリーナになっていて約4,000人程度、観客が入っていた頃もあった。
- ・ バスケット用のスコアボードは、大阪エヴェッサを誘致するために本施設が購入した。重量があるスコアボードだが天井に吊っても構造的に問題無く、さらに重量がある相撲の際に吊り屋根を吊ることも出来るようになっている。

■ 事例調査の総括

今回視察したアリーナ等を通して、基本構想策定の参考となる項目を整理する。

- ・ 事例調査や昨今の社会情勢からも、スポーツビジネスが地域経済に大きく貢献するものもあることから、アリーナ等のスポーツ施設が地域の活性化や周辺環境に大きな役割を果たすと考えられる。
- ・ 施設の管理運営について、補助金、委託費等に頼らない事業計画が望ましく、利用料金制度など施設の利用料収入により運営することが理想と思われる。このため、特定のスポーツ団体のホームとしての利用や、専属の職員を配置などの工夫が必要である。
- ・ マツダスタジアムでは、多様な観客のニーズに対応した取組みとして観客席の工夫等が見られた。市民の球場であることと、施設を有効に活用することで集客効果、経済効果をあげる創意工夫が見られる。
- ・ 施設は10年を経過すると経年変化が進み修繕費が問題になるため、短期、長期の修繕計画が必要となる。
- ・ 施設の搬入口は設営と撤収が同時にできるように大型トラックがアリーナ部分まで乗り入れ可能な搬入口を二ヶ所以上設け、更にアリーナの位置を地下や2階部分に設けず道路と搬入口はほぼ同レベルにするなど、器材等の搬入、搬出への配慮が重要になる。
- ・ 床は大きな荷重を支えられる構造の土間コンクリートにし、電気、給排水、都市ガス等の床ピットを設けることで、多様なイベント等にも対応可能となる。
- ・ 施設の設備としては、特殊なスピーカーや舞台装置などの器材を整えるよりは、電源を設けたり、天井から多様な物が吊れるようにするなど、変化に対応可能な環境整備を行った方が修繕費もかからず良い。

